
令和3年度

「地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャーツーリズムのモデルツアー造成等事業」

冬季ATツアー造成事業①

事業実施報告書

令和4年2月

北海道運輸局

目次

【1】事業概要	P.3
(1) 事業目的	
(2) 事業の概要	
(3) 事業実施スケジュール	
【2】実施内容	P.6
(1) 冬季 AT ツアー造成	P.8
①全体説明会の実施	P.8
②資源調査の実施	P.9
③スルーガイド研修の実施	P.19
④完成した AT プログラム	P.32
⑤スルーガイドの教材・育成プログラム作成	P.36
⑥ツアー実施に必要な事項、販売の際に必要な事項などの英語化	P.38
⑦海外の AT 旅行会社への評価のヒアリング	P.40
(2) モニターツアーによる検証	P.42
(3) 販売体制の構築	P.61
【3】総括	P.64
【別添】資料編	

【1】事業概要

(1) 事業の目的

北海道は欧米豪市場で人気の旅行形態であるアドベンチャートラベル（以降、「AT」という）の要素である「自然との関連性」「異文化交流」「身体的活動（アクティビティ）」を全て備えており、滞在期間が長く、地元への経済波及効果も高い AT 旅行者を獲得するため、AT 領域最大の協会であるアドベンチャートラベルトレードアソシエーション（以降、「ATTA」という）の世界的な商談会・イベントであるアドベンチャートラベルワールドサミット（以降、「ATWS」という）の 2021 年大会を招致した。

2021 年大会は新型コロナウイルス感染症拡大による入出国制限等の影響によりオンラインでの開催となったが、本来であればサミット前に 2～4 日の行程で実施されるエクスカージョンであるプレサミットアドベンチャー（以降、「PSA」という）、サミット初日に日帰りで実施されるデイオブアドベンチャー（以降、「DOA」という）が実施される予定であり、北海道においては PSA、DOA に合わせた AT ツアーの造成及び磨き上げを実施してきた。そのため AT ツアーの開催可能時期が「グリーン期」に集中している状況にあり、冬季を含めた通年での安定した AT ツアーの提供が求められている。

そこで通年での AT 顧客の誘客をはかるために、北海道内の日本版 DMO（候補法人含む、以降「DMO」）等と連携し、コンセプト・ストーリーを持った冬季の AT ツアーの造成を本事業にて実施した。

なお本事業にて連携する DMO は（一社）大雪カムイミンタラ DMO、（一財）丘のまちびえい活性化協会（以下、丘のまちびえい DMO）とする。

(2) 事業の概要

■業務の骨子

(1) 冬季 AT ツアー造成
① 連携する DMO の各地域において 1～3 泊の冬季 AT ツアー商品を造成し、組み合わせることで 4～6 泊程度のモデルコースを造成する。AT 専門家を選定し意見・助言を取り入れ、地域の観光資源選定・ワークショップ開催などを実施し、商品造成の課程で DMO 及びその関係者が AT ツアーを造成するコーディネーターに必要な素材発掘・AT ツアー造成方法などの知識を身につけ、各地域で自発的に AT ツアーを造成出来る様な人材育成にも繋げる。
② 造成した AT ツアーを一貫して管理・演出するスルーガイドがガイディングする内容を記述した資料を作成し、スルーガイド候補を対象とした実地における研修を行う。また研修結果を基に今後各 DMO がスルーガイドを育成できるようにするための教材や育成プログラムを作成する。
③ ツアー実施に必要な事項、販売の際に必要な事項などの英語化を行う。
④ web 会議システムを活用し造成したツアーについて国内外の AT 旅行会社に評価のヒアリングを行う。
(2) モニターツアーによる検証
造成した AT コースについて AT 外国人有識者等によるモニターツアーを行う。実施にあたっては、スルーガイドを英語で行い、北海道運輸局が昨年度作成した AT ツアーの評価シート、情報整理・研修事業で作成するスルーガイドの評価シートを活用し評価を行い、連携する DMO と意見交換の場を設けること。
(3) 販売体制の構築
造成した AT ツアーについて販売体制の構築を行う。情報整理・研修事業にて整理した商談に関する内容をもとに、連携する DMO と協議し現状に即した当面の販売体制構築と、今後目指すべき体制の検討を行うこと。

■成果目標と成果指数

1～3 泊の AT ツアー造成数	2 件以上
4～6 泊の AT モデルコース造成数	1 件以上
スルーガイドの教材・育成プログラム作成数	1 件以上
販売体制の構築	2 件以上

(3) 事業実施スケジュール

事業実施スケジュールに関しては、下記の通りで進めた。

事業内容	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
(1) 冬季 AT ツアー造成							
冬季 AT ツアーのモデルコース造成		←					→
ガイドング内容の考案				←			→
スルーガイド研修の実施				● 11/16-17	● 12/14-17		
スルーガイド育成プログラム作成					←		→
ツアー実施・販売にかかる事項の英語化						←	→
海外 AT 旅行会社を対象とした 評価ヒアリングの実施						←	→
(2) モニターツアーによる検証							
モニターツアーの実施						● 1/24-28	
(3) 販売体制の構築							
販売体制の考案				←			→
販売に関する資料の作成（英語化含む）						←	→

[補足]

■ 事業実施における新型コロナウイルス感染拡大の防止策に関して

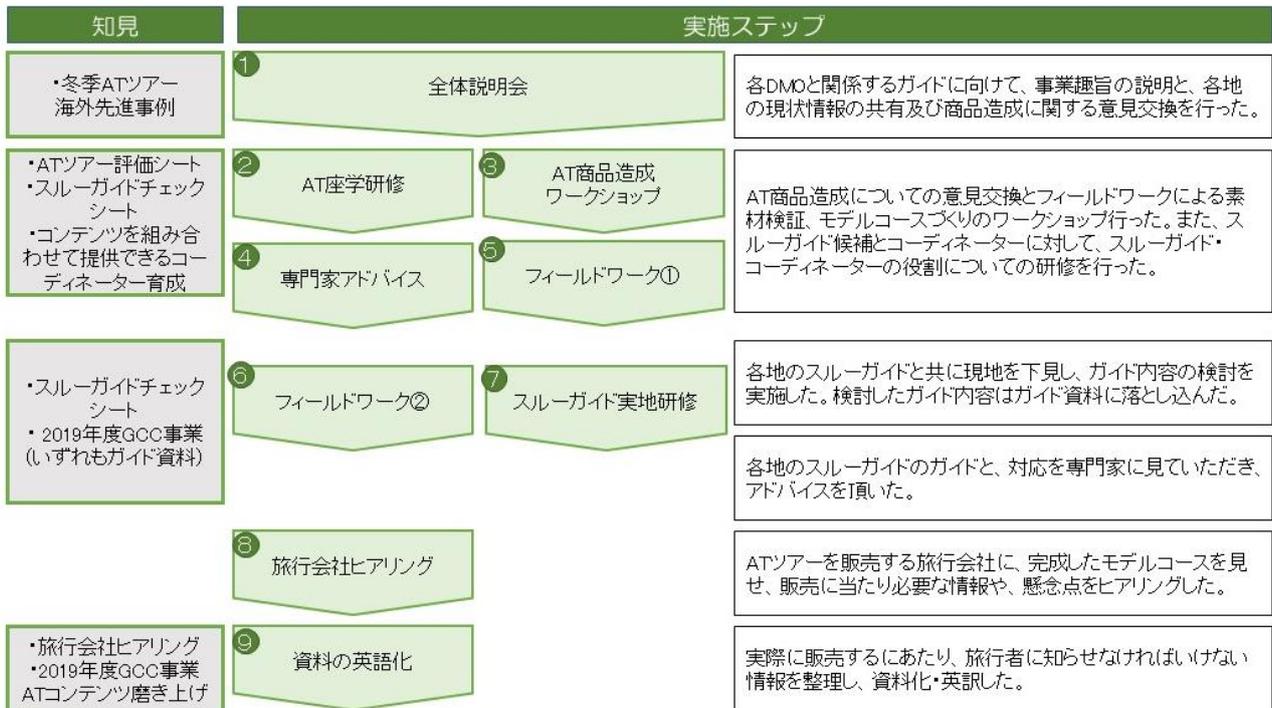
指定事業者としての責務を果たすため、政府方針、道の方針、各地域の感染状況等を考慮し、十分な感染対策を講じた上で事業遂行にあたった。以下はその一部である。

- 現地訪問にあたり資料調査など十分に準備をおこない、ヒアリング時間は必要最小限度にとどめ、現地ではしか得られない情報を効率的に収集。（電話・インターネットを活用したヒアリング方法も取り入れ、柔軟に対応）
- 訪問日程前に PCR 検査等の感染症予防対策を行うほか、発熱・体調不良などの自覚症状がある場合は、速やかに申し出て当該スタッフは現地訪問には参加しない。（日程もしくは同行スタッフを変更）
- 密閉・密集・密接の「3密」の状態を避ける取り組みをし、関係者間の距離に十分に注意。
- マスク着用の徹底、手指の消毒洗浄、パーテーションの設置などの対策をおこなった。
- 訪問先の施設等において策定された感染拡大防止ガイドライン等に基づく指導がある場合はその指示に従った。

【2】実施内容

■事業遂行のステップ

本事業の流れは以下のとおりである。また、本事業と『「地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャーツーリズムのモデルツアー造成等事業」冬季ATツアー造成にむけた情報整理・研修事業』との連携を図りながら、相乗効果を生み出すよう遂行した。



上記に挙げた「知見」においては、以下の資料や事例を活用した。

知見	事業名	活用方法
海外の先進地事例	令和3年度「地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャーツーリズムのモデルツアー造成等事業」冬季ATツアー造成に向けた情報整理・研修事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外の冬季ATツアーはどのようなものが販売されているのかの情報共有
スルーガイドチェックシート		<ul style="list-style-type: none"> ・ スルーガイドに求められる役割の確認 ・ スルーガイド候補の業務チェック
ATツアー評価シート	令和2年度「訪日グローバルキャンペーン等に対応したコンテンツ造成事業」アドベンチャートラベル商品造成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ ATツアー造成の際に、盛り込む必要がある項目のチェック ・ 完成した冬季ツアーの評価
コンテンツを組み合わせ提供できるコーディネーター育成	2019年度「訪日グローバルキャンペーンに対応したコンテンツ造成事業」(2-2)アドベンチャートラベルコンテンツ造成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ コーディネーターに必要とされる役割の確認 ・ AT旅行プランの調整・作成において注意すべき点の確認
2019年度GCC事業 ATコンテンツ磨き上げ		<ul style="list-style-type: none"> ・ 顧客に提供すべき情報(MIC)の内容確認

招聘した専門家

各研修・モニターツアーの企画運営のすべてに助言いただいた。



吉川 彩香氏 <Adventure Hokkaido 合同会社 Managing Director & Co-founder>

札幌市出身。ニュージーランド Lincoln University で Recreation Management and Outdoor Leadership の学士号を取得。同国にて、AT ツアーを催行するツアーオペレーターで7年間サイクリングガイドを勤める。その後、JICA でエルサルバドルへ2年間赴任し、現地の環境教育やエコツーリズムをプロデュースした。現在は北海道でAT ツアーを提供する合同会社 Adventure Hokkaido で代表を務めながら、現場でのガイドも行う。国内旅行業務取扱管理者資格、北海道アウトドアガイド資格（山岳：夏山）、Wilderness Advanced First Aid (WAFA)資格を保有。

なお、同社は以降「AH社」として記載する。

(1) 冬季 AT ツアー造成

① 全体説明会の実施(オンライン) [実施日: 2021 年 10 月 29 日]

本事業を始めるにあたり、各DMOにオンラインで事業説明と課題等のヒアリングを行った。

(使用した資料は資料編に掲載)

■ 参加者一覧(敬称略・順不同)

<大雪カムイミントラ DMO>		
氏名	所属	役割・役職等
柏葉 雄貴	大雪カムイミントラ DMO	事業担当者
佐藤 愛	大雪カムイミントラ DMO	コーディネーター候補
何 雨庭	大雪カムイミントラ DMO	コーディネーター候補

<丘のまちびえい DMO>		
氏名	所属	役割・役職等
小倉 博昭	丘のまちびえい DMO	ガイド・ガイド育成プログラム 考案、運営
泉 剛生	丘のまちびえい DMO	事業担当者・コーディネーター・ガイド
小泉 暁	丘のまちびえい DMO	ガイド候補生(英語)
花輪 美希	丘のまちびえい DMO	コーディネーター(英語)

講師		
氏名	所属	役割・役職等
吉川 彩香	Adventure Hokkaido 合同会社	代表、コーディネーター・ガイド・ファウンダー

事務局	
森 恭兵	北海道運輸局観光部観光企画課
経田 直哉	北海道運輸局観光部観光地域振興課
佐々木 岳人	北海道運輸局観光部観光企画課
小濱 有希子	株式会社北海道宝島旅行社

②資源調査の実施 [実施日:2021年11月16-17日]

冬ATプランの造成のために、資源調査を行った。各DMOのコーディネーター育成も兼ねていることから、ATの基礎知識を復習するための座学研修と、机上にて既存資源を組み合わせたATプランのアイデアを出すワークショップ、実地研修の3段階で実施した。

■参加者一覧(敬称略・順不同)

氏名	所属	役割・役職等
小倉 博昭	丘のまちびえい DMO	ガイド・ガイド育成プログラム 考案、運営
泉 剛生	丘のまちびえい DMO	事業担当者・コーディネーター・ガイド
小泉 暁	丘のまちびえい DMO	ガイド候補生(英語)
ハチ・リチャードソン	丘のまちびえい DMO	コーディネーター・サポート ガイド(英語)
花輪 美希	丘のまちびえい DMO	コーディネーター(英語)
石黒 康太郎	(株)とうま振興公社	コーディネーター・ガイド
菅野 智史	鷹栖町地域おこし協力隊 ※当時。現在は独立	コーディネーター・ガイド候補生
佐藤 健作	株式会社 Triventure ※当時は起業前	代表
柏葉 雄貴	大雪カムイミンタラ DMO	事業担当者
佐藤 愛	大雪カムイミンタラ DMO	コーディネーター候補
何 雨庭	大雪カムイミンタラ DMO	コーディネーター候補

講師		
氏名	所属	役割・役職等
吉川 彩香	Adventure Hokkaido 合同会社	代表、コーディネーター・ガイド・ファウンダー
リチャード・スミス	Adventure Hokkaido 合同会社	ガイド
菊地 敏孝	北海道観光振興機構	AT推進室 部長

事務局	
森 恭兵	北海道運輸局観光部観光企画課
佐々木 岳人	北海道運輸局観光部観光企画課
小濱 有希子	株式会社北海道宝島旅行社

■実施概要

日時	2021年11月16-17日
タイム スケジュール	<p><DAY1- 座学研修></p> <p>09:45 美瑛 四季の情報館2F 研修室 集合 ~名刺交換等</p> <p>10:00 座学研修</p> <p>①座学 ATとは(前回の復習) …約30分</p> <ul style="list-style-type: none"> —追加情報>北海道観光振興機構 AT推進本部 菊地氏より —調査事業の事例紹介 <p>②実践者である Adventure Hokkaido が提供している道内ツアーについて紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> — 全道で展開していることの前提説明/自分の会社のアイデンティティとしてやりたいツアーを作っていることの重要性、など — AH社のツアーで、ゲストに喜ばれた具体的なポイントを紹介 — AH社が、どういうガイドさんたちと一緒にやっているのか — スルーガイドと言われている人たちの役割、求められる資質を具体的に紹介 <p>11:30 昼食休憩</p> <p>13:00 ワークショップ</p> <p>① 素材の確認</p> <p>午前中のお話を聞いたうえで、自分がぜひATトラベラーに紹介したいと思ったコンテンツを1つずつ挙げてもらう。その理由を明確に。</p> <p>② ATツアーを作ってみる 約50分</p> <p>③ 作ったツアーの発表~相互に見てみて意見交換</p> <p>※発表 15分×4チーム 60分</p> <p>15:30 明日のフィールドワークの内容確認</p> <p>● <u>「今ある素材はどうやったらATになり得るのか？」</u></p> <p><DAY2 - フィールドワーク></p> <p>実際のフィールドや、ソフトアドベンチャーと言われるプログラムを視察・体験してみて、「どう工夫したらATになるか」という視点で考える。</p> <p>09:30 旭川駅北口 南口ロータリー(北彩都側)</p> <p>10:00 近藤染工場</p> <p>11:30 美瑛町へ移動~昼食</p> <p>14:00 スノーシューフィールドの見学</p> <p>15:00 丘のまち郷土学館「美宙」ガイドツアー</p> <p>16:00 美瑛町内にて意見交換(ビ・エール2F フリースペース)</p> <p>18:00 旭川駅にて解散</p>

実施にあたり、この研修自体を2日間の「研修ツアー」としてみなし、MIC(Minimum Information for Customer)の一例となるように、参加者には次の資料を事前に配布した。当日のスケジュールと実施概要も資料に記載した。

地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャーツーリズムのモデルツアー造成等事業

冬季ATツアー造成事業① ー資源調査&ワークショップ

2021年11月15日

(株)北海道宝島旅行社 観光地域づくりチーム 小濱

【実施日程】2021年11月16～17日(火～水)

【参加者(敬称略)】

大雪カムイミントラ DMO エリア…6名(柏葉、佐藤愛、ウテイ、佐藤健作、石黒、菅野)

丘のまちびえい DMO エリア…4名(小泉、泉、花輪、小倉)

Adventure Hokkaido…2名(吉川、リチャード・スミス)

北海道運輸局…2名(森、佐々木)

北海道宝島旅行社…2名(小濱、菊地/北海道観光振興機構出向中) ※菊地はDAY1のみ参加します

※ 当日は検温を行います。37.5℃以上の体温が検出された場合は、ご参加をご遠慮いただきますので、あらかじめご了承ください。

【スケジュール】

<DAY1- 座学研修>

※前回と同じく、質疑応答は随時行う。インタラクティブな会を目指します!

09:45 美瑛 四季の情報館2F 研修室 集合 ～名刺交換等

10:00 座学研修

①座学 ATとは(前回の復習) …約30分

ー追加情報>北海道観光振興機構 AT推進本部 菊地氏より

ー調査事業の事例紹介

②実践者である Adventure Hokkaido が提供している道内ツアーについて紹介

ー全道で展開していることの前提説明/自分の会社のアイデンティティとしてやりたいツアーを作っていることの重要性、など

ーAH社のツアーで、ゲストに喜ばれた具体的なポイントを紹介

●ポイントは、「誰のための旅行商品なのか」

→マーケティングの概念も入ってくる。どういった方に喜んでほしいかイメージする

→ワークショップ内にこれを意識して商品を作ることの訓練を入れ込む

③AH社が、どういうガイドさんたちと一緒にやっているのか

ースルーガイドと言われている人たちの役割、求められる資質を具体的に紹介

～～②③合わせて約40分程度、質疑応答含めて11:30までを想定

11:30 昼食休憩(美瑛町内で、各自支払いにて自由におとりください)

13:00 ワークショップ

① 流れ、方法説明

② 素材の確認

午前中のお話を聞いたうえで、自分がぜひATトラベラーに紹介したいと思ったコンテンツを1つずつ挙げてもらう。その理由を明確に。

③ ペルソナ設定 (3パターンくらいこちらから提示)

④ AT ツアーを作ってみる 約50分

⑤ 作ったツアーの発表～相互に見てみて意見交換

※発表 15分×4チーム 60分

15:30 明日のフィールドワークの内容確認

●学ぶことは、「今ある素材はどうやったらATになり得るのか?」

(案)

・美瑛町 丘のまち郷土学館「美宙」のガイドツアー

・美瑛DMOが冬のスノーシューツアーで使うフィールドを見てみる

(グリーン期は入れない場所のため、近くへ行き、このコースを選定した理由などを共有する)

・旭川 近藤染工場の染物体験…地域産業の組み込み方

・そのほか、見たいと出たもので可能なところへ。

16:00 終了

<DAY2 - フィールドワーク>

実際のフィールドや、ソフトアドベンチャーと言われるプログラムを視察・体験してみて、「どう工夫したらATになるか」という視点をみんなで考える一日にします。

※調整中のため、時間やプログラムは変更になる可能性があります。

09:30 旭川駅北口—~~アクティビティセンター~~前集合 ▶南口ロータリー (北彩都側)

09:45 ~~バス乗車~~ ▶各車両に分乗

10:00 近藤染工場 ▶確定。ただし10名限定のため、入場者を決めさせていただきます。

11:30 ~~昼食—美瑛町へ移動~~ ▶いったん解散後、美瑛町へ移動。

各自昼食後、13:30に再集合 (美瑛駅ロータリーを予定)

14:00 スノーシューフィールドの見学

15:00 丘のまち郷土学館「美宙」ガイドツアー (小倉氏)

16:00 美瑛町内にて意見交換 (ピ・エール2F フリースペース)

17:00 一部解散 (美瑛町チーム、個別車両の方)

18:00 旭川駅にて全員解散 (事務局車両に乗車の皆さま)

【集合場所】

DAY1…美瑛町 四季の情報館 2階研修室

- 初日は、終日、四季の情報館で行います。交通手段はご自身でご手配ください。



DAY2…旭川駅 南口ロータリー（北彩都側）

- 一般参加の方（DMO スタッフ以外）は、終日事務局車両に同乗いただきますので、荷物を持って徒歩でお集まりください。お車でお越しの方は、コインパーク等にお停めください。



【もちもの】

体を動かす体験はありませんが、屋外フィールドを見る時間があります。防寒着や雨具をご持参ください。

- ・ 筆記用具
- ・ 防寒着、雨具（傘でOK）
- ・ 動きやすい服装、靴（スーツ NG。AT なのでアウトドアウェアが望ましいです。）

【お問合せ】

事務局（株）北海道宝島旅行社 担当：小濱（おばま）

TEL 080-1973-6001 Mail obama@hokkaido-takarajima.com

以上

■当日のようす

[Day1 座学研修～ワークショップ]

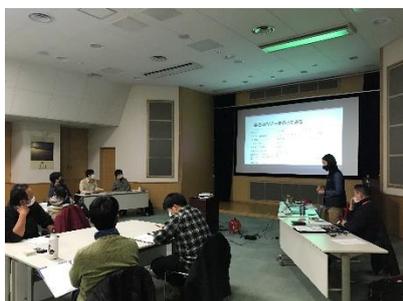
Day1 座学研修



本研修には、ATにはじめて触れる参加者もいたことから、基礎知識の共有からスタート。全員で同じ話を聞き、意見交換を行って理解を深めることが、「この地域ならではのATの在り方」を作ることに繋がると考えたためである。座学研修の流れは以下のとおり。

- ①「ATとは」基礎知識の復習
- ②AH社の事例から、「リアルなアドベンチャートラベラーの姿を知る」ことと、「コーディネーターの仕事」と「スルーガイドの役割「ATを通して得られる喜び」について学習した。

Day1 ワークショップ



座学研修を経て、実際にATを作ってみるワークショップを実施。

ATには「コーディネーターやガイドが事前に現地を訪れていること」が重要と言われるが、そもそものスタートは、すでに持っている情報やインターネットを活用して、机上でツアーの仮説を立てることである。

そのため、まずは仮説を立て、フィールドワークでその現地を視察（今回の場合は視察する時のポイントを伝授）し、実際にツアーが成立するのかを検証するという一連の流れの訓練として実施した。

Day2 フィールドワーク～近藤染工場



1898（明治 31）年創業の染め物工場の視察。大雪カムイミンタラ DMO が昨年度までに農林水産省の農山漁村推進交付金を活用して造成したプログラムの一つである。

近藤常務のアテンドのもと、職人が手作業で染物をしている様子と同じ空間で見学し、会社沿革をお聞きした。感染症対策のため、現場に 1 回に入れる人数を 10 人までと絞り、2 つのグループに分けて実施した。

アドバイザー吉川氏からは、近藤染工場の概要を英語で説明するためのポイントの説明があった。

（以下抜粋）

- ・ 旭川の歴史に深く関わる産業であることを大切に。
- ・ このことを説明するには、旭川の開拓、北海道の開拓、さらに日本の明治維新についてさかのぼって説明する必要がある。
- ・ 明治維新は深く説明しすぎる必要はない。「1868 年ごろに大きな時代の転換点があり、北海道の開拓がはじまったとき」という程度でよい。
- ・ 明治維新を説明すると、幕府とはなにか、武士とはなにか…ときりがなくなってしまう。本当に伝えたいポイントがぼやけてしまわないように、必要な事柄だけに絞り込むことが大切である。

なお、待機中に見せていただいたビデオに、最も若い職人のインタビューや成長過程が記録されており、それを見てから現場に入ると本人の仕事ぶりを見ることができると、ビデオをぜひ最初に見たいとの声が上がった。

Day2 フィールドワーク～美瑛町丘のまち郷土学館「美宙」



丘のまちびえい DMO のプログラムを視察。こちらも農林水産省の農山漁村推進交付金を活用して造成したプログラムの一つであり、すでに定番化している。美瑛町のゲートウェイプログラムとして、次年度からは農業体験を含むすべてのプログラムの前にセットする予定とのこと。地域の資料館は特に雑多な展示になっているため、伝えたい箇所を絞り込むことと、ゲストが興味を持ったことへ回答する方法に寄ってもよいとのアドバイスがあった。

Day2 フィールドワーク～美瑛町 丘のスノーシュープログラムフィールドの視察



美瑛町の人気プログラムの一つに、「ふら～り 冬さんぽ」～美瑛の丘で絶景スノーシュー体験～
[\(https://mybiei.jp/event/p=628/\)](https://mybiei.jp/event/p=628/) がある。このフィールドを視察。

美瑛町の体験プログラムは、観光客が農地へ無断で侵入することなどによる農業被害等の「オーバーツーリズムによる悪影響」を軽減することをビジョンに掲げて造成されている。そのため、フィールドの選定にも細やかな配慮がなされている。

地域への波及効果が大きいATにこそ必要な考え方であるため、全員でその視点を共有した。

[参加者意見まとめ] (敬称略、発言順) ●→アドバイザーからの補足

名前 (所属)	コメント
泉 剛生 (丘のまちびえい DMO)	ツアーを作る側の目線で参加した。カムイミンタラ DMO のプログラムを見て、美瑛にないものが旭川にはあることを再認識。文化、建築、お酒一両方の良いところを補い合って、ゲストにとって良いツアーに仕立てられそう。さらに互いをつなぐことによって楽しんでもらえる可能性が高まる。 近藤染工場は良いプログラムだと思う。もっと発信すべき。 スノーハイクならスノーハイクと謳えば、それ以上を求める人は来ない。行った先に驚きがあれば、期待値を超えられるはず。ソフトけどわくわくする要素 (WOW ファクター) を入れ込めば魅力的なツアーになる。
佐藤 愛 (大雪カムイミンタラ DMO)	旭川・美瑛のいいところという点と点を結んでアレンジすることの重要性。今後の商品造成に活かす。
何 雨庭 (大雪カムイミンタラ DMO)	日本にしかないもののインタープリテーションが難しい。しっかり内容を理解して通訳できる人が必要。正しい情報を伝えるためにも、実際に体験した人が通訳すべきだと感じた。 ●アクティビティの場合、そのプログラムの経験者であり、かつ通訳ができる人がスルーガイドになることが重要
柏葉 雄貴 (大雪カムイミンタラ DMO)	近藤染工場のプログラムは自社のものだが、大漁旗という文化をどのようにツアーの中に結び付けていくか考えられていなかったことに気付かされた。もう一度、会社の沿革、北海道・日本・旭川の歴史とミックスさせて考えなくてはならない。美瑛のプログラムに関しては、オーバーツーリズムの解消の観点からツアーを作るという考え方があることに気付くとともに、冬場に農家さんと

	<p>商品を作れるという考え方が抜けていた。まだ自分たちにやれることがあると思えた。</p> <p>●北海道には目に見えて分かりやすい歴史がない。見せづらい歴史をどう伝えるかがガイドの腕の見せ所。つまり、北海道にはガイド付きツアーをやるべきポテンシャルがまだまだあるということ。</p>
石黒 康太郎（とうま振興公社）	<p>自分は当麻町単体で活動しているアクティビティガイドだが、当麻町に来た人はすでに町外で何かしらの体験をしてから来ているということが考えから抜けていた。各スポットのガイドに対して、ゲストのあらゆる情報をつないでくれるコーディネーターの存在が必要だと気づいた。今回複数のガイドプログラムを体験したが、それぞれの方が、自分が持つたくさんの引き出しの中から相手に合わせて情報を選んで出していることが素晴らしい。</p>
小倉 博昭（丘のまちびえい DMO）	<p>スルーガイドはすぐにはできるものではない。スポットガイドを育成することが先決。スルーガイドになるためのベースとなるスキルを積ませること。</p> <p>●ニュージーランドでは、スルーガイドの役割を持つガイドは、プログラムに関するスキルや経験も豊富なうえ、人生経験も豊かな50代以上が多い。ずっと勉強している。そういった方はやはりゲストからの評価も高い。</p>
ハチ・リチャードソン（丘のまちびえい DMO）	<p>ガイドは自分で事前にフィールドワークすべき。目的は、情報の仕入れと本番に備えた訓練。外国人に伝わるような言い回しを考えることが大切。テーマ・ストーリーをつないだツアーを通して、広い北海道の中でも頑張っている我々の心がつながっている、とゲストに感じてほしい。</p>
小泉 暁（丘のまちびえい DMO）	<p>（自分の海外でのガイド経験から）国民性と個人の趣味趣向を把握することは非常に難しい。特に、国民性はパーソナリティよりも明確に出る。ゆえに、ゲストの国籍・地域情報は必ず把握し、あいさつくらいはその国の言葉で出来るとよいコミュニケーションになる。</p> <p>ツアーに関しては、全部詰め込むとすべてを逃してしまうこともある。現場で調整が可能なアクティビティをツアーの中に入れ込んでおくが良い。</p> <p>●最初はいろいろなアクティビティを試して、売れ行きを見て得意分野を絞り込んでいくと良い。アクティビティとそれ以外の地域資源とのバランスをよく見ること。その土地にないものを当て込んでもAT顧客には響かない。</p>
リチャード・スミス（Adventure Hokkaido スタッフ）	<p>これまでの自分のガイドは、「スキーを目的として訪れた人を、いかに他のプログラムに引っ張るか」というやり方だった。しかし、スノーシューも、文化も…とつまみ食いをしたいタイプのアドベンチャートラベラーも増えてきたので、そういう旅行を作る必要があると気づいた。</p> <p>●「バックカントリーツアー」と謳うと、バックカントリーをなんとしてもやりたがる人が多い。このようにアクティビティによって異なるので注意。</p> <p>●スノーシューを好む層は、ハイキングを好む層と重なる。</p>

森 恭兵（運輸局）	体験は人に結び付いている。「このガイドさんに会いたい」という気持ちは、来訪同期になることと、全体像が見えてからプログラムに入るという順序が大切だと思う。
佐々木 岳人（運輸局）	自分が旅行する時に、自然を観光するというのがなかった。ストーリーを交えながら観光すると一層感動が深まるのが分かった。

■アドバイザー 吉川氏より総括

これまでの日本の旅行は、「伝えること」と「リスクを回避すること」を最優先にしてきた。対象者によって何を最優先とするかを読み取り、臨機応変に対応することが大切。特に、日本人のリスクの管理レベルと外国人のそれとではギャップがある。また、ガイドのリーダーシップの取り方も異なる。

ガイドの心得

●対象者を理解する（年齢、経験値、国籍、趣味趣向 etc.）

- 初心者や子どもの場合→インストラクター的なアプローチが必要
- 外国人のアドベンチャートラベラー…すでにそのアクティビティを外国で経験済みのことが多い。
 - ①この土地ではこうすると楽しめるという方法を提案する
 - ②本当に危険なことなど、ガイド側が回避したいリスクを明確に、事前に理解してもらう。

★伝え方のポイント「できないことよりできることを」

まず楽しいこと・できることを伝えて、それを楽しむために守ってほしいルールを伝える。

（例）美瑛の丘のスノーシュープログラム

このプログラム自体は、農地への無断侵入をさせないために、「なぜ入ってはいけないか」を伝えるために作られたもの。ゲストには、「ふつうは絶対に入るのできない、秘密の丘の上でスノーシューを楽しむ」という内容で伝わっている。そこに DMO 所属のガイドが付き、「この景色がどのようにつくられたか→農業者の生業の場であること」を伝え、「この景色を持続的に楽しむためには、農業を守る必要がある」ということが理解できるようなストーリーに組み立てられている。

その結果、「農地に無断で入ると、靴の裏の細菌が土壌汚染をする可能性がある」「農作業の妨げになるような行動（無断侵入や路上駐車）をとってはならない」ということが、抵抗なくゲストに理解していただけるようになった。

★細かい部分の配慮が、ゲストの期待を超える

外国人と日本人では、感動のツボが異なる。よく相手の表情や声のトーンを読んで、自分も一緒に喜ぶこと。AT では、ガイドがツアーを通じて同行するため、この行動がその後の日に繋がって良い効果を生む。同じフィールドばかりでガイドをしていると、ガイド自身の気持ちがマンネリ化していく。常にフレッシュな気持ちを持つこと。

③スルーガイド研修の実施 [実施日:2021年12月14-17日]

前項で調査した当該エリアの資源を含む情報をもとに、3泊4日のガイド研修を実施した。この時点で、スルーガイドとして独立できる人材は候補の中には存在しなかったため、アドバイザーの Adventure Hokkaido の提携ガイドである「ガイドオフィス風」の鳥羽晃一代表を、スルーガイドの講師として招聘し、ツアーを実施した。

■参加者一覧(敬称略・順不同) ※一部のみ参加の研修員も記載

氏名	所属	役割・役職等
小泉 暁	丘のまちびえい DMO	ガイド候補生(英語)
泉 剛生	丘のまちびえい DMO	事業担当者・コーディネーター・ガイド
ハチ・リチャードソン	丘のまちびえい DMO	コーディネーター・サポートガイド(英語)
石黒 康太郎	(株)とうま振興公社	コーディネーター・ガイド
佐藤 健作	一般	株式会社 Traventure 代表
柏葉 雄貴	大雪カムイミンタラ DMO	事業担当者
佐藤 愛	大雪カムイミンタラ DMO	コーディネーター候補
何 雨庭	大雪カムイミンタラ DMO	コーディネーター候補

講師		
氏名	所属	役割・役職等
吉川 彩香	Adventure Hokkaido 合同会社	代表、コーディネーター・ガイド・ファウンダー
リチャード・スミス	Adventure Hokkaido 合同会社	ガイド
鳥羽 晃一	Adventure Hokkaido 合同会社 /ガイドオフィス風	スルーガイド

事務局	
森 恭兵	北海道運輸局観光部観光企画課
経田 直哉	北海道運輸局観光部観光地域振興課
佐々木 岳人	北海道運輸局観光部観光企画課
小濱 有希子	株式会社北海道宝島旅行社

※車両…旭川電気軌道株式会社

公益社団法人日本バス協会「貸切バス事業者安全性評価認定制度」3つ星取得事業者

■行程

日時	2021年12月14-17日
タイム スケジュール	<p><Day1 (12/14TUE) ></p> <p>08:00 旭川駅集合～建物内で検温・ブリーフィング後、乗車</p> <p>09:30 旭岳温泉探勝路スノーシューorスキーシューツアー（徒歩圏内のスタート地点）</p> <p>14:00 東川町ハルキッチンにてエゾシカプログラム（昼食つき）</p> <p>15:35 東川町ウッドワーク（http://www.wood-work.co.jp/）にてマイ箸づくり</p> <p>18:00 解散</p> <p><Day2 (12/15WED) ></p> <p>09:00 旭川駅集合～建物内で検温・ブリーフィング後、乗車</p> <p>10:00 美瑛町郷土学館「美宙」ゲートウェイプログラム</p> <p>11:30 昼食 レストラン&カフェ丘の宿こえる</p> <p>13:00 美瑛白金の森ウォーク</p> <p>15:00 終了美瑛駅へ移動 美瑛駅駐車場にて、30分程度の意見交換～明日の予定説明</p> <p>17:30 旭川駅着、解散</p> <p><Day3 (12/16THU) ></p> <p>09:00 旭川駅集合～建物内で検温・ブリーフィング後、乗車</p> <p>09:15 出発</p> <p>10:00 当麻鍾乳洞スノーシュー&ケービングツアー※雪がないのでケービングのみ</p> <p>13:30 当麻町食事処たかはしにて昼食</p> <p>15:30 上川神社頓宮（常磐公園内）</p> <p>17:00 終了、旭川駅へ</p> <p>17:30 解散</p> <p><Day4 (12/17FRI) ></p> <p>09:00 旭川駅集合～建物内で検温・ブリーフィング後、乗車</p> <p>09:45 嵐山スノーシューハイク※北方野草園駐車場スタート</p> <p>12:30 旭川市大雪地ビール館にて昼食（レストランスペース。各自支払い）</p> <p>14:00 高砂酒造工場見学※廣野部長のご案内</p> <p>16:30 旭川駅着、振り返り</p> <p>17:30 解散</p>

■当日のようす

Day1 集合～ブリーフィング



旭川駅構内で集合し、ロータリーでバスに乗車。札幌や新千歳空港からの特急電車があり、旭川空港とのリムジンバスも定期的に運行されている。構内にはコンビニエンスストア、ATM、簡易食堂やお土産店のほか、イオンが隣接している。大雪エリアのゲートウェイとして最適な環境にある。簡単な挨拶程度ですぐにバスに乗車する。立ったまま話を聞かせるタイプのガイディングはATにはそぐわないことを理解してもらうため、ブリーフィングはバスの移動中に実施した。

Day1 旭岳スノーシュー



旭岳のスノーシューは、ロープウェイが動いているかどうかでコースが決まる。今回は運休期間だったため、旭岳ふもとの探勝路と言われるルートで鴨沼までを往復するコースで実施した。これは当日の朝まで最終決定ができない（ロープウェイの運行情報都合）ため、コーディネーターが情報を管理・調整することの見本となった。

スノーシュープログラムの中では、鳥羽ガイドのガイディングを実体験しながら、参加者自身が樹木などについて英語で表現する訓練を行った。

また、アドベンチャートラベラーは、自分で体感し、自分で理解を深めることを好むため、最後などにフリーの時間を設けることが重要であることも実感してもらった。

Day1 ハルキッチンでエゾシカプログラム



ハルキッチン（東川町）は、ハンターの女性が営むレストラン。鹿肉の料理を食べながら、猟に対する彼女の思いを聞く対話の時間として、AH社が提供しているプログラムの一つである。北海道においてエゾシカの被害は多岐にわたる。その現場に立つハンターとしてどのような思いがあるのか、またハンターは地域にとってどのような役割・仕事があるのかをお聞きした。

Day1 ウッドワークでマイ箸づくり体験



ウッドワーク（東川町）は手作り家具工房。旭川を中心とした大雪エリアは木工家具・小物の生産がさかんで、旭川は「家具のまち」としてもブランディングしている。地域産業には地域の環境・歴史が深く紐づいていることを知ってもらう。

ウッドワークでは、端材でマイ箸を作るにあたり、日本の伝統的な大工道具「カンナ」を使う。作業自体は1時間もかからない簡単な内容だが、人それぞれに出来もこだわりも異なる「世界に一つだけのマイ箸」が出来上がる。日本ならではのカトラリーを持つ価値と、サステナブルに貢献するという両方の側面でATに適している。このプログラムをツアー前半に行い、その後の行程で使用してもらうようスルーガイドから促すと良い。

[12/14 意見交換のポイント]

- 忘れてほしくないことは、最初に伝える。

ギア、服装、体調といったアクティビティに直結する物事のほか、「現金の用意」を必ず伝える。来日したばかりのゲストだと、日本円を持っていないことがある。日本では大都市以外はクレジットカードが使えないところが多く、キャッシュが必要であることを念入りに。

- 全体像・大きい視点から話し始める。移動する場合、見えるものに合わせて話題を振る。

例えば、大雪エリアは米どころであると伝えるにあたり、水田が見える場所での話題を出すと理解されやすい。車窓から見えるものを英語で説明できるようにしておくとい。

- **ゲストがガイドに対して質問を出しやすい状況を作る。**
アドベンチャートラベラーは「質問したがり」である。ガイド側からはトピックときっかけを提供するだけにとどめ、それに対して出された質問に合わせて自分の知識の引き出しから選択して話を膨らませていく。必ず知識＝答えを持っておくことが大切。
- **ポジティブなメッセージで伝える。**
日本の国立公園内にガードレールや岸壁工事のコンクリートなど、人工物が多いことに対して疑問を抱くアドベンチャートラベラーは少なくない。その場合は、「日本人は人間の安全を第一に考える傾向がある。我々旅行者に安全に国立公園を楽しんでもらいたいという思いで設置されている」といった表現にする。
- **ガイドが前に出て話す「講義形式」はやめよう！**
日本人は「聞く」「話す」という行動の区切りが明確だが、外国人はそうではない。自分で動いて感じて、議論して理解を深めることを望む。日本人向けのスタイルから脱却すること。特に、アドベンチャートラベラーには、例えばエベレスト登頂者もいるが、そういったゲストに登山のいろはを教える必要はない。相手をよく見て、インタラクティブなガイディングを心がける。
- **「Can you～」の使い方に注意。**
場合によってはきつい言い方にとられることもある。Please を組み合わせるなど工夫すること。

Day2 ブリーフィング



Day1と同じく、ブリーフィングはバスの中で実施した。鳥羽ガイドはホワイトボードにその日の行程を簡条書きにするスタイル。ポイントは「書きすぎない」「項目だけを簡潔に」

Day2 美瑛町丘のまち郷土学館「美宙」ガイドプログラム



12月のフィールドワーク時には、丘のまちびえいDMOのシニアガイドである小倉氏の日本語でのガイドを体験した。今回はガイド候補として参加している研修メンバーの小泉氏のガイド訓練も兼ねて実施。小泉氏は令和3年半ばに美瑛町に移住してきた地域おこし協力隊であり、過去にガイド業に携わっていた経験はあるものの、美瑛町・北海道のことについて勉強中である。ここでは小泉氏からAH社に対し、英語での表現方法に関する質問が随時投げかけられ、インタラクティブな研修の時間となった。

Day2 白金の森スノーシュー



小倉氏による白金の森のスノーシュープログラムを体験。

直前の「美宙」のプログラム内で、白金エリアが十勝岳の噴火によって流されたことを知っているため、この森がどのように再生したかというストーリー的繋がりがガイドングのメイン。今回のツアーの中で訪れている中では、比較的若い森にあたるという話があった。(約80歳の森)実際にその場に足を踏み入ると、樹木の様子などからそれを理解することができる。

目的地は、有名な青い池の上流部にあたる「ブルーリバー」。なぜ青いのかなど質疑応答がかわされる。休憩時間に配られたのは青いハーブティー「バタフライピー」。バタフライピーと青い池に繋がりは無いが、「青い池を見たくて来ている」ゲストに対しての演出として考案された。ちょっとした演出も喜ばれるポイント。

[12/15 意見交換のポイント]

● 美瑛町より補足

美宙のゲートウェイプログラムは、次シーズンからは農作物の収穫体験プログラムにもセットにすることが決まっている。「何のために農場に行ってもらおうか（農地への無断侵入をなくしたい）」を、プログラム提供側が根底に持っているからこそセットにする価値がある。

● ジオパークについての説明が必要。簡単でよい。

(例) ユネスコ…世界遺産を認定する世界的な機関が、独自性のある地質をもつエリアを「ジオパーク」として認定しています」

● ゲストが見ていないものは存在しないものと同じ。

例えば、美瑛の美宙でのゲートウェイプログラムの段階で「Hill Town (丘のまち)」と紹介するのであれば、そう呼ばれる所以を写真等の何らかの形でゲストに提示した方がよい。美宙に訪れた段階で、まだ丘の風景を見ていない可能性があるため。

- **文化の違うゲストに説明するには、まず相手のことを理解すること。**

(例1) 北海道の開拓から現在までの歴史を説明する必要がある。

北海道には、歴史ある神社などの THE・日本的なものがないことを、ポジティブに伝えるために、開拓が行われた理由を含めて説明する必要がある。「幕府」を説明するのは非常に難しいため、「19世紀中ごろに、日本にとって大きな歴史の転換点があった」という程度でよい。

(例2) 「onsen」を日本人の文化として表現する。

「お湯に浸かる」という行為は神道に由来するといわれ、禊の意味合いが含まれる。自宅でも日本人は湯船に浸かったり、ホリデーには温泉地に行ったり、湯治という文化もあることを伝えると、ただのモノとしての onsen ではなく、文化体験に昇華させることができる。

- **ゲストの反応を見て、方法や話題を変える。**

複数人のゲストの場合、100%満足させるガイディングはなかなか難しい。鳥羽ガイドは、めやすとして2割以上が不満そうであれば方法を変えるようにしているそう。特に日本人は反応が薄く読み取りにくいいため、無表情でも実は真剣に聞いていたり、その逆もあったりする。ガイドにはめげない心が必要。

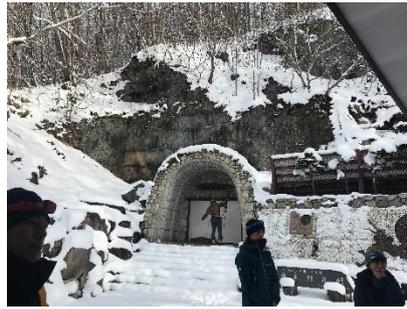
- **自分なりのガイドスタイルを確立していくこと**

美瑛の小倉ガイドは、ゲストを自分のペースに引き込むタイプのガイド。自分の好きなことを伝えたいという思いがあるから。比較して鳥羽ガイドは、雰囲気づくりを大切にするタイプのガイド。ゲストを楽しませることが第一と考えているから。ガイドスタイルに正解はない。どう伝えて、どう楽しませるかは人それぞれであるから、いろいろなガイドと接して吸収してほしい。

- **広い範囲の知識を持ち、フィールドを歩いた実地経験がガイド力の厚みになる**

小倉ガイドのインタープリテーションは、いつも同じところのガイドしかしないスポットガイドではできないクオリティ。お客さんがファンになるガイドの見本。

Day3 当麻鍾乳洞スノーシューツアー



当麻町内パーキングスペースで研修メンバーの石黒氏と合流。一日のスタートでもあり、ブリーフィング部分を英語で話すことに挑戦した。

●できるだけ英語で話すことに挑戦してほしいと働きかけており、3日目になると次第に全員が英語を単語レベルからでも使うようになった。「抵抗感をなくすことが大切」とAH社。

鍾乳洞入り口までの非除雪部分約1kmをスノーシューで行く。石黒ガイドが樹木や動物の痕跡をガイディングした。冬季閉鎖されている場所に、石黒ガイドが同行する本ツアーだけなら入ることができる特別感が大きい。石黒氏がこの鍾乳洞を心から愛し、大切に思っていることが分かる熱意あるガイディングが全員に高評価を得た。

Day3 食事処と地元商店への立ち寄り



昼食は「食事処たかはし」地元の人が足を運ぶ食堂。昨日作ったマイ箸を使用する人もいた。

駐車場へ戻る道すがら、地元の人に愛される駄菓子屋さん「はしだ商店」に立ち寄った。地元の人との思いがけない触れ合いと、日本の子ども文化を知る・思い出す機会になった。

Day3 上川神社頓宮



大雪エリアの中心ともいえる上川神社の頓宮が旭川市の中心部にあるため訪問。権禰宜（ごんねぎ）板谷氏が急遽内部を案内してくれた。地域と神社の深いつながりや稲作と神道のつながりなど、ガイドプログラムにするのは非常に難しいが、地域の歴史・産業との関わりなど基礎知識として知っておくべき内容だった。

例：神社にお供えされるものは、稲・米をモチーフにしたり、原料が米由来のものがほとんど。北海道有数の米どころである当エリアには必要な知識である。

[12/16 意見交換のポイント]

● 神社の概念を外国人に伝えるのは非常に難しい。しかし、基礎知識として必要。

参加者も今回の研修で初めて認識することが多かったように、日本人ですら知らない神社にまつわる情報は枚挙にいとまがない。

ポイントは「稲作の豊作を願って作られている」こと。装飾（魔除け）、供物などに「稲」や「雷」をモチーフにしたり、米が原料となる酒が欠かせない供物であるなど、特に米どころである大雪エリアにとって神社は重要な存在であるといえる。

今回訪問したエリアで例を挙げると、

- ・ 大雪山国立公園、旭岳を源流とする伏流水が、このエリアに流れている
- ・ 舞台のひとつである旭川にも多くの川が流れており、「川のまち 旭川」と呼ばれる
- ・ 旭川の発展を担った産業のうち、稲作・醸造産業に触れることができる
- ・ 各地域の人々のよりどころとして、必ず神社が建てられた
- ・ 各神社に奉納するお神酒を醸造する酒蔵が地域には必ずあった
→上川神社では、高砂酒造のお酒に限定している
- ・ 高砂酒造訪問

といった形で、ツアーの中で訪れたり、さりげなくガイド内容に含まれたりする。基礎知識として地域の神社の権禰宜・神主等にお話を伺っておくと、ガイドスキルに厚みを持たせられる。

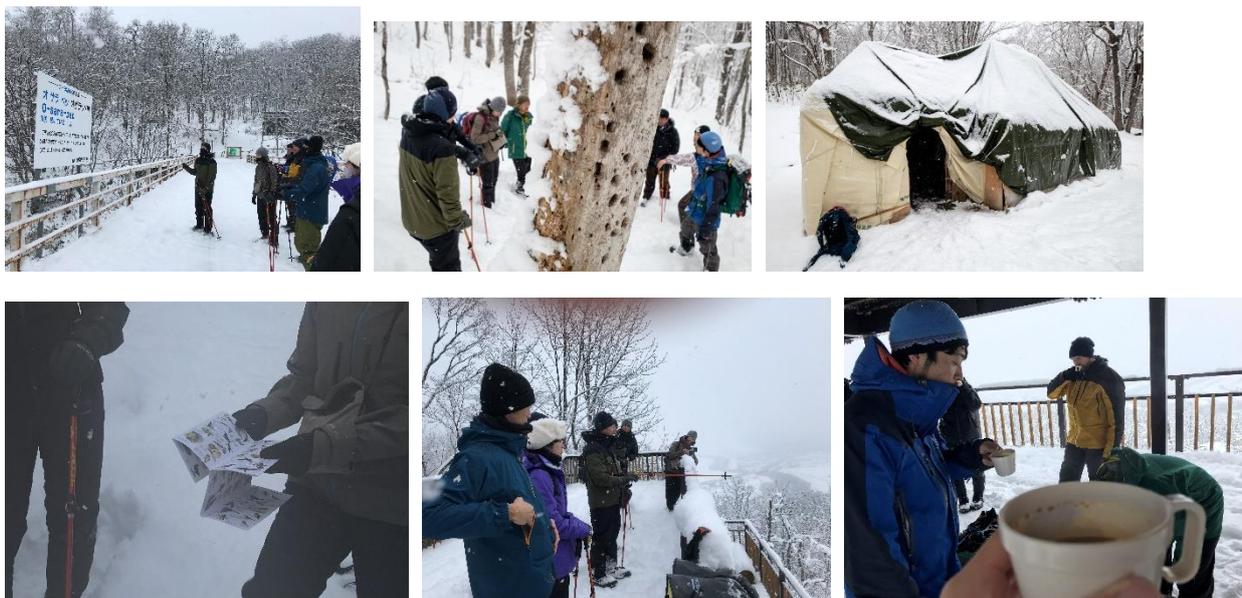
● 神社は、どの宗教の人も関係なく訪れてよい

上川神社頓宮の権禰宜板谷氏の話によると、「神道は“道”と書くように、宗教ではない」。日本人の根底にある生き方や考え方を示すものであり、宗派による差別区別はないという。

ゆえに、どのような宗教の方でも訪れて、お参りをしてよいとされている。

ただし、これも文化の違いであるため、ゲストに強要するものではない。

Day4 嵐山スノーシューハイク



これも AH 社のプログラムの一つであり、鳥羽氏がアクティビティガイドも務める。この日は、通し参加者の中から嵐山を訪れるのがほぼ初めての方にガイドをしてもらった。スルーガイドは初めて行く場所のガイディングをすることもあり、実験・訓練のために実施した。

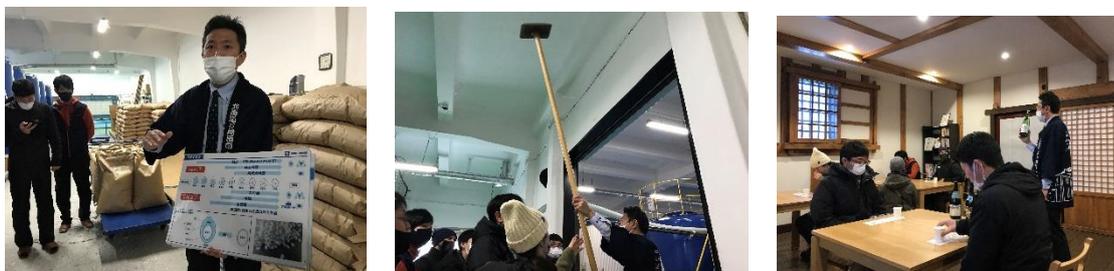
チセ（アイヌの伝統的な家屋）は冬囲いをされている。（理由は鹿の食害から守るため）クイズにするとよいなどのアドバイスが AH 社よりあった。

また、鳥羽氏は嵐山もフィールドとしており、さまざまなガイド手法を見せてくれた。ガイドツールは特別に作ったものばかりではなく、ビジターセンターなどで配布されているものを保存し、必要に応じて提示することでも十分対応できるとのこと。

頂上の展望台からは、今回の研修で訪れた場所を見渡すことができる。ツアー全体を振り返る時間として設定すると良いと思われる。

休憩時には AH 社があたたかい飲み物を用意しており、登山途中で話に出てくる植物を煮出した野草茶というストーリーもあった。なお、コロナ禍においては使い捨てカップがよい場合もあるため、ゲストの関係性などを考慮して用意するとよい。

Day4 高砂酒造 酒蔵見学～試飲



創業 120 余年の酒蔵の見学ツアー。営業部の廣野部長にガイドを依頼した。他の方でもガイドツアーはできるそうだが、内外の関係性づくりに積極的な彼を指名すべきであると思われる。今回は特に、当麻鍾乳洞で熟成させるご当地日本酒の製造が高砂酒造であり、その担当が廣野氏であることから、その話をしてもらえようように下準備を行った。現地では、実際の道具や酒米も現物を見せて説明してくれる。飲酒ができない方には、甘酒を用意してもらうよう手配。

[12/17 意見交換のポイント]

● 英語の勉強になるツールの紹介

① 「A GEEK IN JAPAN」 <https://www.tuttle.co.jp/products/show/isbn:9784805311295>

日本が大好きな外国人が日本について書いた書籍。複数の国で出版され、現地の言葉で書かれている。「クールジャパン」が主題であることから、漫画・アニメカルチャーに偏る部分もあるが、「外国人が日本をどのように見ているか」を認識するのに適した一冊。

② 「VOICES IN JAPAN」

ポッドキャスト。リスニングの訓練になる。

● 行程も、ガイド内容も、詰め込みすぎない

ゲストは、日本にいただけで疲れる（特に脳が）。目に入ってくるものがすべて「NEW」であり、その不安やストレスは気づかないうちにたまるもの。これまでの日本の団体旅行のようなイメージで詰め込みすぎることは、まずしてはいけない。交流を大切にする方も多いため、ゆっくりとした滞在時間の準備と、行程の中でフリータイムも設けておくとよい。

● レストランでもストレスなく過ごしてもらうためのコツ

料理の種類が多い店では、「これがお勧めです」と絞ってゲストに提示する。この時に、初めて行くレストランであれば、お店の方に聞いて絞り込むこと。またはコースにするのもおすすめ。さらに、ランチもツアー代金に含むのも良い。小銭の区別ができないことが多いため、支払いのストレスも減らせる。

[最終日：参加者意見まとめ] (敬称略、発言順)

名前 (所属)	コメント
佐藤 健作 (一般)	最終日に自分でガイドをやってみたが、非常に楽しかった。ガイドになると見える景色が変わるし、他のガイドの方の素晴らしさに気付く。例えば参加者の安全管理や、ネタの出どころなど、多くの配慮があると分かった。自分もこの地域で旅行会社を立ち上げるにあたり (2022年現在起業済み)、もっと当エリアのことをきちんと話せるようになりたいと思った。
石黒 康太郎 (とうま振興公社)	佐藤さんが、この4日の研修をまとめたガイドをしていたことに驚いた。これがスルーガイドとして大切だと気づいた。ATの面白さを知ることができた。自分も当麻鍾乳洞のガイドを見てもらって、自分の伝えたいことが相手に伝わった時のうれしさや喜びがあった。ただ、仕事として地元ガイドとして話すことがマニュアル化されていることにも気づかされた。「小学校5年生にも伝わるように」「そぎ落とす」をここ悪露掛けて磨き上げていく。刺激を受けた!
小泉 暁 (丘のまちびえい DMO)	鳥羽さん、石黒さん、佐藤さん、美瑛の先輩ガイド小倉さん・・・皆さんのガイドを受けてみて、それぞれにパッションを感じた。本当にこれが素晴らしいと感じたうえで話されていることが分かった。これこそプロの技術だと思う。また、北海道に移住して日が浅い身でもあり、このメンバーのコミュニケーションが取れて良かった。これから連携を深めていきたい。
佐藤 愛 (大雪カムイミンタラ DMO)	自分はコーディネーターの立場だが、歴史や背景を分かったうえで商品を作る必要があると理解した。自分もこの地域に来てまだ数年、まずはこのエリアを好きになるところから始めないといけないと反省した。本 DMO エリアのプログラムの中では、特に高砂酒造のプログラムを掘り下げて作り込みたい。
森 恭兵 (運輸局)	初日のアクティビティガイド 鳥羽さん→石黒さん・小泉さん→抜き打ちで最終日に佐藤さん、と移り変わっていった。それぞれにガイドのタイプも異なり、最終日に佐藤さんが集大成の成果を出してくれたと思う。このメンバーでなかったらこの成果は生まれなかった。大きな事業成果です。
経田 直哉 (運輸局)	事業を組み立て発注する側として、この研修の手法が非常に良かったと思う。アドバイザーの Adventure Hokkaido の方々が、「やってみよう」と参加者に思わせるやり方や雰囲気作りが非常に上手だと感じた。自分も縁のある地域で知っているつもりだったが、まだまだ可能性のある地域だと知ることができた。

④完成したATプログラム

完成した各 DMO のモデルプランは以下のとおりである。

なお、組み合わせたロングコースの行程表は、モニターツアーの項にて記載する。

【大雪カムイミントラ DMO】

団体・活動名	大雪カムイミントラ DMO	日程	3泊4日	人数	5名程度まで
ねらい	形成年代の異なる自然をスノーシューで渡り歩き、 大雪エリアの自然環境や地形、産業について知る		フィールド	旭川・当麻・東川	
タイトル・ コンセプト	Mountain to the City 4-Days snowshoe tour ～形成年代の異なる自然を渡り歩くジオスノーシューツアー～		その他		

進行表

日時	活動内容・押さえるべき言動（セリフ）・その他		準備物・ゲスト持ち物
1日目			
AM	旭川 川村カ子トアイヌ記念館ガイドツアー	◇上川エリアの基本情報として 欠かせない、上川アイヌの知識 を序章としてってもらう ◇旅の安全を記念した祈祷	服装 ・ダウンジャケット、または スキーウェア上下などの暖 かい服装・スノーブーツ・帽 子・手袋・サングラス等 あればよいもの
昼食	旭川 or 東川にて（軽めに）		
PM	東川町 キトウシ山 スノーシューハイク	◇足慣らしを兼ねた低山でのス ノーシュー ※ゲストの経験値を図るために 軽度からスタートする ◇天候がよければ展望台へ。こ のツアーで訪れる場所を眺めて 序章とする	・双眼鏡 ・カイロ
夜	旭岳温泉 泊	◇温泉の入り方などレクチャー	
2日目			
AM	東川町 旭岳スノーシューハイク ロープウェイ運行→旭岳噴気孔コース ロープウェイ休止→鴨沼コース	◇大雪山国立公園のメインの山 へ。活動している噴気孔を目指 すスノーシュー。	服装 ・ダウンジャケット、または スキーウェア上下などの暖 かい服装・スノーブーツ・帽 子・手袋・ゴーグルやサング ラス等 あればよいもの
昼食	14時頃～の遅めの昼食 東川 ハルキッチンでエゾシカ料理 （ハンターの女性が営むレストラン）	◇北海道におけるエゾシカのト ラブルと、彼らとの共生を考え るには、ハンターの考え方生き 方を知ることが重要。	・双眼鏡 ・カイロ
PM	東川 ウッドワークにて箸作りワークショ ップ	◇同じく東川町の産業の一つで ある木工芸に触れる。職人と地	

夜	旭川中心部ホテル泊 夕食は旭川名物新子焼き、和食など	域とのかかわりを、ワークショップを通じて体感する ◇国立公園の山々と 40 万人が 住む街が近いことを実感。	
3 日目			服装
AM	当麻町 当麻鍾乳洞スノーシューツアー	◇ジュラ紀に生まれたといわれる鍾乳洞へ。 ◇北海道内で唯一中に入れる鍾乳洞。 ◇冬季の 1～2 カ月しか入ることができない特別ツアー ◇鍾乳洞までのゆるい上り坂を、樹木や動物の痕跡を楽しみながらスノーシューで歩く	・ダウンジャケット、またはスキーウェア上下などの暖かい服装・スノーブーツ・帽子・手袋・ゴーグルやサングラス等 あればよいもの ・双眼鏡 ・カイロ
昼食	当麻町 食事処たかはし 等	◇地元の人が訪れる食堂で、ラーメンやカレーなど	
PM	高砂酒造 酒造見学ツアー（試飲つき） 旭川中心部ホテル泊（連泊が望ましい） ホテルに早く入り、洗濯や休憩の時間を設ける。	◇当エリアの発展に欠かせない醸造産業を知る。	
夜	夕食はフェアウェルパーティーを兼ねる 大雪地ビール館でジンギスカン	◇当エリアの発展は第七師団によるものであり、軍服の材料として羊毛が必要だった。その羊の有効活用法として、ジンギスカンが生まれたといわれている（所説あり）	
4 日目	少し遅めにホテルチェックアウト		
AM	旭川 嵐山スノーシューハイク ・アイヌの聖地「チノミシリ（我祈る山）」 ・野草園でもあるためさまざまな植物がある。ネイチャーガイドとアイヌガイドの両方をアサインするとベスト。	◇初日に訪れた、川村記念館の人々も大切にしている「上川アイヌの聖地」 ◇旭川市民にとっても身近なハイキングルート ◇展望台から旭川を一望＝このツアーで巡ったところを見て、ツアーのエンディングとする。	
昼食	旭川市内		
PM	次の目的地へ移動		

【丘のまちびえい DMO】

団体・活動名	丘のまちびえい DMO	日程	1泊2日	人数	5名程度まで
ねらい	十勝岳の噴火に翻弄されつつも、防災対策を万全に行ってたくましく生きる美瑛の人たちの愛郷心に触れるツアー	フィールド	美瑛		
タイトル・コンセプト	Living with Active Volcano Mt. Tokachi 2-Days Snowshoe tour	その他	十勝岳ジオパーク、2022年1月認定		

進行表

日時	活動内容・押さえるべき言動（セリフ）・その他		準備物・ゲスト持ち物
1日目			服装
AM	丘のまち郷土学館「美宙」ガイドツアー 美瑛町ツアーのブリーフィング	◇美瑛町のゲートウェイプログラム。十勝岳ジオパークの導入としても効果的な内容。 ◇十勝岳の活動に翻弄されつつもたくましく生きる美瑛の人々の思いや取り組みを知る	・ダウンジャケット、またはスキーウェア上下などの暖かい服装・スノーブーツ・帽子・手袋・サングラス等 あればよいもの ・双眼鏡 ・カイロ
昼食	美瑛町内（レストランこえる、炭火割烹亀鶴など）		
PM	丘のスノーシューツアー	◇十勝岳連峰を一望できる丘の上を歩くスノーシュー。美瑛町の全容を見ることができる ◇実はこの丘は農地であり、農家の許可を得て実施している ◇美瑛町の農地を使ったプログラムは、オーバーツーリズムによる農業と観光の軋轢を解消したいという思いで作られている	
夜	白金温泉 泊	◇美宙で知ったばかりの白金温泉に宿泊することで、ツアーへの没入感を図る。	
2日目			
AM	白金の森&ブルーリバーズスノーシュー	◇十勝岳の噴火から町を守るために作られた人工物が生み出した「青い池」。本ツアーはその上流部を訪れる。 ◇噴火は破壊とともに自然の神秘をもたらしたことを知る。	服装 ・ダウンジャケット、またはスキーウェア上下などの暖かい服装・スノーブーツ・帽子・手袋・サングラス等 あればよいもの

<p>昼食</p> <p>PM</p>	<p>美瑛町 喫茶すずらん</p> <p>「手ぬぐるみ」体験 手ぬぐいお土産付き</p> <p>終了後、次の目的地へ移動</p>	<p>◇十勝岳の噴火による泥流で一度失われ、その後約 80 年かけて生き返ってきた天然林。</p> <p>◇夏は藪が深いため行くことができない場所。</p> <p>◇美瑛町で最も古い喫茶店</p> <p>◇店主や地元住民との交流</p> <p>◇喫茶すずらんのオーナーが復職・手ぬぐいデザイナー。</p> <p>◇美瑛町の農作物をイメージしたデザインの手ぬぐいを使い、折り紙の要領で形を作る体験。</p> <p>◇冬は目にすることのない美瑛の農作物に思いを馳せてリピートを促し、エンディングへ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・双眼鏡 ・カイロ
---------------------	--	---	--

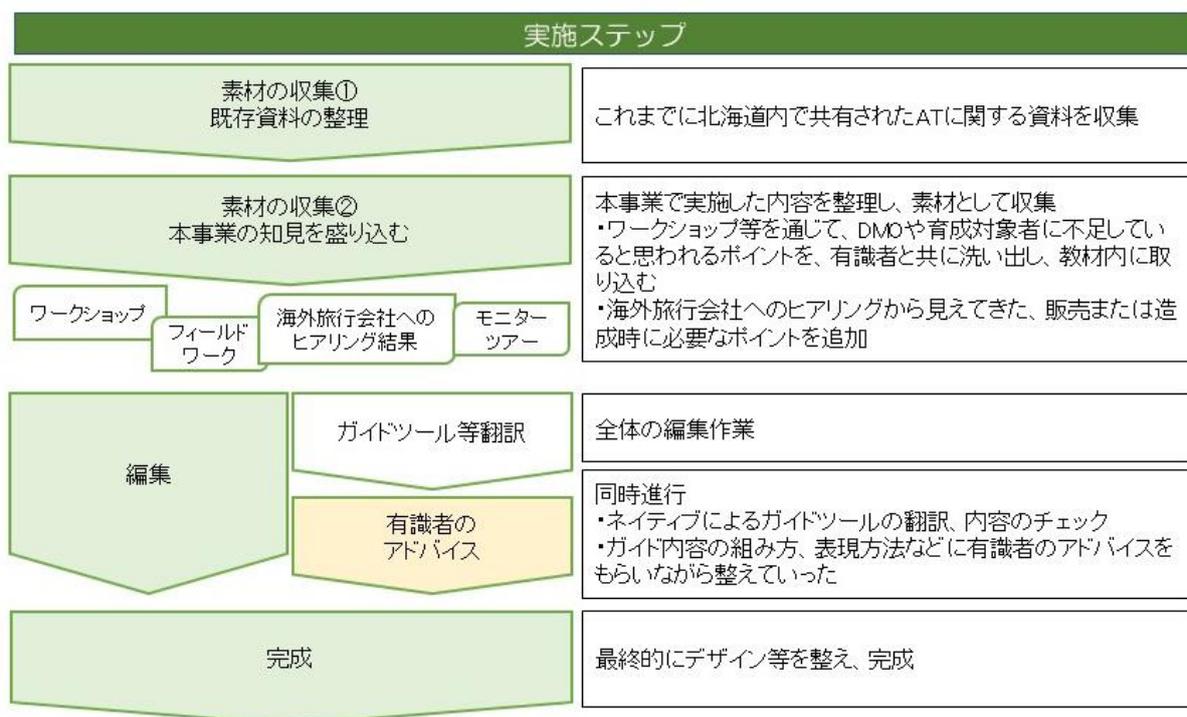
⑤スルーガイドの教材・育成プログラム作成

本業務の内容と、北海道宝島旅行社がこれまでATに関わってきた中で得た知見を盛り込み、「北海道アドベンチャートラベル スルーガイド・コーディネーター育成プログラム<大雪圏域版>」としてまとめた。

制作にあたっては、直近3年ほどの事業で共有されたATに関する資料を収集し、ATに関する基礎情報を最新版にアップデートすることから始め、本事業で得られた知見を差し込む形で進行了た。

また、スルーガイドツールの作成時にはアドバイザーの吉川氏、スルーガイド講師の鳥羽氏にも加わっていただいて内容を考案し、大雪エリアならではのスルーガイドの基本台本として完成させた。さらに英語への翻訳作業時には、ゲストへ伝わりやすい表現をネイティブの翻訳者とともに考案し、適切な内容へと磨き上げた。

実施の大まかな流れは以下のとおりである。



■育成プログラム冊子のイメージ（全ページは資料編に掲載）



アドベンチャートラベルの基本理念「四方よし」

ここに、ATの構造をよく示した図を掲載します。

これまでの観光は、中央の枠にある「観光事業者」と「観光客」の間で成り立つものでした。たとえば、大型バスで訪れた観光客が、観光用のお土産店でお土産を購入するという、サービスと対価が二方であり取り立てられていました。ここに、地域ならではの魅力を取り入れて交流人口を増加させ、地域経済を活性化させようという旅行形態が加わります。これが、いま主に求められている観光のあるべき姿、「三方よし」です。

そしてATが目指す観光の姿は、さらに「環境」が加わった「四方よし」です。旅行商品そのものに自然保護を組み入れることで、商品価値が向上し、持続可能な商品と環境保全を目指すという内容になっています。

ATは、旅行そのものが地域・環境を持続可能にすることを理念としています。ATの基本理念の根底には、SDGsがあることを忘れてはなりません。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

※SDGs【持続可能な開発目標】 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

大雪エリア基本情報 ※ここから先英訳入れる予定です

1. 大雪エリア 概要

日本最大（2022年現在）の国立公園である「大雪山国立公園」を有するとともに、そのすそ野に広がる地域、国立公園の大自然と、約40万人が暮らす都市・農村部が隣接しているのが特徴である。その玄関口となる、北海道第2の都市である旭川市には、JR旭川駅や就職率99%を誇る旭川空港もあることから、非常にアクセスのよい場所である。

主要産業の農業においては、上川盆地では稲作、丘陵地帯ではじゃがいも・小麦・とうもろこし・ビート（砂糖大根）等の畑作が行われている。有名なブランド米「ゆめぴりか」が誕生したのもこの地域（比布町にある上川農業試験場）である。

そのほか、鉄鋼業、木製家具生産等も盛んで、特に旭川市は「家具のまち」としても知られる。

（参考）旭川駅⇄札幌駅間 電車で1時間30分／車で約1時間30分～2時間（高速道路利用）
旭川空港⇄旭川駅間 連絡バスで約40分
札幌駅⇄新千歳空港間 電車で約40分

※HATA(Hokkaido Adventure Travel Association)/HPより

2. 気候

冬はマイナス30℃、夏はプラス35℃にもなる、北海道内でも寒暖差の大きい地域、日本で最も低い気温を記録した地域。内陸に位置することから積雪も多い。10月下旬から翌年の4月下旬までの半年間、平地でも雪が降る。スキーなどの雪遊びを長期間楽しむこともできる。

モデルルートに沿ったガイド台本案 ※台本部分は翻訳に出します

実際に、このモニターツアー前にスルーガイド候補者が作成した台本を参考資料として掲載します。ただし、くれぐれも「このまますべて話さないこと」。

あくまでも基礎知識・事前準備として備えておき、状況に応じて引き出しから出すスタイルがATには適しています。学校の授業のようにゲストの前に立って長々と説明すること、すべてを教えられることを、アドベンチャートラベラーは好みません。むしろ、現場で体を動かしながら、ゲスト自身が気づくこと、疑問に思ったことについて、ディスカッションすることを求めます。そのため、一度に全部の情報（ネタ）を出し切らないことがポイントです。

キーワード「Less is More」(より少ないことはより豊かなこと)を忘れずに！

【以下、台本】
1日目

おはようございます。私は石黒です。旭川の隣の当麻町で地元ガイドをしています。よろしくおねがいます。

Good morning. My name is Ishiguro. I'm a local guide in Toma Town, a town next to Asahikawa. Nice to meet you.

今回のツアーは「山から街へ スノーシューツアー4日間」というツアーです。
This tour is called "From the Mountains to the City: A 4-day Snowshoe Tour".

今皆さんがいるエリアは大雪エリアと呼ばれています。北海道の真ん中より少し上のエリアです。
The area where you are now is called the Daisetsu Area. The area you are now in is called the Daisetsu area, which is a little above the middle of Hokkaido.

夏は暑く冬はこの通り寒い！そして雪が多いエリアですが、雪質は有名なニセコと変わらない位パウダースノーです。
Hot in summer, cold in winter as you can feel! And although there is a lot of snow in the area, the quality of the snow is as powdery as the famous Niseko area.

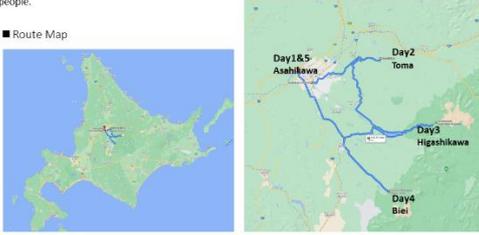
私たちがいる旭川市は北海道第2の都市で空港もあります。そして、北海道の北エリアのターミナル駅もあります。
Asahikawa City, where we are located, is the second largest city in Hokkaido and has an airport. It is also the terminal station for the northern area of Hokkaido.

⑥ ツアー実施に必要な事項、販売の際に必要な事項などの英語化

現状、両 DMO とも AT 顧客と直接セールスをする体制にないため、北海道宝島旅行社を窓口としてとして造成したツアーを販売することで合意している。そのため、今後の体制整備を見越して、本事業のモニターツアーの MIC（海外エージェントへのプレゼン資料としても兼用）と、北海道宝島旅行社の免責事項類を英訳したものを参考資料として両 DMO へ提供した。

※以下は一部。資料編に全頁の拡大版を掲載

a. モニターツアーMIC

 <p>Daisetsu area in Hokkaido Mountain to the City 4-days Snowshoe Tour</p> <p>Hokkaido Treasure Island Travel</p>	<p>■ Mountain to the City 4-Days snowshoe tour Daisetsuzan National Park is the largest national park in Japan with an area of approximately 230,000 hectares. The main peak of the park is Asahidake (2,291m), the highest mountain in Hokkaido, known as the "roof of Hokkaido". There are several active volcanoes in this national park, and the people living here have been suffering from the damage caused by volcanoes, but they have been able to overcome and benefit from them. In this tour, you can feel the history of the coexistence of the people in the Daisetsu area by walking with snowshoes through the environment of different formation ages and touching the lives of the people.</p> <p>■ Route Map</p> 																		
<p>[Itinerary] Mountain to the City 4-Days snowshoe tour</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Industry/Food</th> <th>Culture</th> <th>Activity</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><small>*These Photos are for illustrative purposes.</small></p>	Industry/Food	Culture	Activity				<table border="1"> <thead> <tr> <th>DAY</th> <th>Itinerary</th> <th>Description</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>15:00 Hotel Check in 18:00 Meet at Hotel Lobby 18:15 Dinner at Ninoyukiya / Briefing 20:30 Back to the Hotel</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> Check in from 3pm. Meet at Hotel Lobby at 6pm and go to Japanese Restaurant "Ninoyukiya" by walking or taxi depending on the weather. </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>08:20 Meet at Hotel Lobby / Transfer by a private car 09:00 Kawamura Kaneto Memorial Museum Guided Tour 11:30 Lunch at Toma Roadside Station 13:00 Toma Limestone Cave Guided Tour 16:00 Back to the Hotel / Dinner</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> Get fascinating insights into the Taietsu area, and an introduction to its indigenous people, the Kamikawa Ainu, and their way of life. Back to the ancient times - Toma Limestone Caves, here we will explore some of the currently known later-connected limestone strata caves, which were formed in the Jurassic Period (150 million years ago) connect the limestone caves we know today. Our restaurant for Dinner this evening will be selected based on participants requests on the day. </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>07:15 Hotel Check out 09:00 Asahidake Funkiko or Kamononuma Snowshoe tour 13:30 Transfer by a private tour 14:00 Lunch at Haru Kitchen — Yezo Deer 16:00 Biei History Museum "Misora" Guided Tour 17:00 Hotel Check in (Shirokane Onsen) Dinner at Hotel (Buffet)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 15,000 years ago - Mt. Asahidake Go to the highest peak, Mt. Asahidake, in Daisetsu National Park. We will decide Funkiko Course or Kamononuma Course depending on the weather. Coexistence with wildlife We will have Yezo Deer Lunch in the restaurant running by a hunter to know about coexistence with wild Yezo Deer, which is one of the problems in Hokkaido. In Biei History Museum "Misora", we look at the lives of people in Biei, who have been tormented by volcanoes and are still going strong, from the perspective of geology. </td> </tr> </tbody> </table>	DAY	Itinerary	Description	1	15:00 Hotel Check in 18:00 Meet at Hotel Lobby 18:15 Dinner at Ninoyukiya / Briefing 20:30 Back to the Hotel	<ul style="list-style-type: none"> Check in from 3pm. Meet at Hotel Lobby at 6pm and go to Japanese Restaurant "Ninoyukiya" by walking or taxi depending on the weather. 	2	08:20 Meet at Hotel Lobby / Transfer by a private car 09:00 Kawamura Kaneto Memorial Museum Guided Tour 11:30 Lunch at Toma Roadside Station 13:00 Toma Limestone Cave Guided Tour 16:00 Back to the Hotel / Dinner	<ul style="list-style-type: none"> Get fascinating insights into the Taietsu area, and an introduction to its indigenous people, the Kamikawa Ainu, and their way of life. Back to the ancient times - Toma Limestone Caves, here we will explore some of the currently known later-connected limestone strata caves, which were formed in the Jurassic Period (150 million years ago) connect the limestone caves we know today. Our restaurant for Dinner this evening will be selected based on participants requests on the day. 	3	07:15 Hotel Check out 09:00 Asahidake Funkiko or Kamononuma Snowshoe tour 13:30 Transfer by a private tour 14:00 Lunch at Haru Kitchen — Yezo Deer 16:00 Biei History Museum "Misora" Guided Tour 17:00 Hotel Check in (Shirokane Onsen) Dinner at Hotel (Buffet)	<ul style="list-style-type: none"> 15,000 years ago - Mt. Asahidake Go to the highest peak, Mt. Asahidake, in Daisetsu National Park. We will decide Funkiko Course or Kamononuma Course depending on the weather. Coexistence with wildlife We will have Yezo Deer Lunch in the restaurant running by a hunter to know about coexistence with wild Yezo Deer, which is one of the problems in Hokkaido. In Biei History Museum "Misora", we look at the lives of people in Biei, who have been tormented by volcanoes and are still going strong, from the perspective of geology.
Industry/Food	Culture	Activity																	
																			
DAY	Itinerary	Description																	
1	15:00 Hotel Check in 18:00 Meet at Hotel Lobby 18:15 Dinner at Ninoyukiya / Briefing 20:30 Back to the Hotel	<ul style="list-style-type: none"> Check in from 3pm. Meet at Hotel Lobby at 6pm and go to Japanese Restaurant "Ninoyukiya" by walking or taxi depending on the weather. 																	
2	08:20 Meet at Hotel Lobby / Transfer by a private car 09:00 Kawamura Kaneto Memorial Museum Guided Tour 11:30 Lunch at Toma Roadside Station 13:00 Toma Limestone Cave Guided Tour 16:00 Back to the Hotel / Dinner	<ul style="list-style-type: none"> Get fascinating insights into the Taietsu area, and an introduction to its indigenous people, the Kamikawa Ainu, and their way of life. Back to the ancient times - Toma Limestone Caves, here we will explore some of the currently known later-connected limestone strata caves, which were formed in the Jurassic Period (150 million years ago) connect the limestone caves we know today. Our restaurant for Dinner this evening will be selected based on participants requests on the day. 																	
3	07:15 Hotel Check out 09:00 Asahidake Funkiko or Kamononuma Snowshoe tour 13:30 Transfer by a private tour 14:00 Lunch at Haru Kitchen — Yezo Deer 16:00 Biei History Museum "Misora" Guided Tour 17:00 Hotel Check in (Shirokane Onsen) Dinner at Hotel (Buffet)	<ul style="list-style-type: none"> 15,000 years ago - Mt. Asahidake Go to the highest peak, Mt. Asahidake, in Daisetsu National Park. We will decide Funkiko Course or Kamononuma Course depending on the weather. Coexistence with wildlife We will have Yezo Deer Lunch in the restaurant running by a hunter to know about coexistence with wild Yezo Deer, which is one of the problems in Hokkaido. In Biei History Museum "Misora", we look at the lives of people in Biei, who have been tormented by volcanoes and are still going strong, from the perspective of geology. 																	
<p>Meal information Day1: Dinner Ninoyukiya (Japanese Cuisine) https://www.yuki-ya.co.jp/shop/ninoyukiya.html</p> <p>Day2: Lunch Toma Roadside rest area (Buckwheat Noodle, Ramen, Japanese Rice Bowl) http://town.tohma.hokkaido.jp/kurashino-madoguchi/kurashi-suma/hiruitoumayoroutouma/omiseseyoukai/1227/</p> <p>Day2: Dinner - It will be decided based on the guests requests on that day.</p> <p>Day3: Lunch Haru Kitchen in Higashikawa Town (Yezo Deer Meat) https://www.facebook.com/harukitchen.higashikawa</p> <p>Day3: Dinner - Buffet in Shirokane Park Hills</p> <p>Day4: Lunch Biei Restaurant Koeru (Japanese Western Set menu) http://www.biei-koeru.jp/</p> <p>Day4: Dinner Daisetsu Ji Beer (Lamb Jingsukan) https://www.ji-beer.com/</p>	<p>What to bring Main Activity is Snowshoeing.</p> <p>No previous snowshoe experience required. All equipment and personal instruction is provided.</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Clothes <ul style="list-style-type: none"> • Beanie • Neckwarmer • Hard Shell Jacket and pants • Gaiter • Warm base layers top and bottom • Waterproof gloves • Winter / snow boots and thick socks • Change of clothes (For when you sweat) ■ Belongings <ul style="list-style-type: none"> • Goggles or sunglasses (Goggles is better in Asahidake) • Backpack with enough capacity to carry all of the above • Insulated drink bottle • Mask <p>Please wear warm clothes that allow you to exercise for about one and half hours in temperatures of minus 5 to 10 degrees Celsius, (23 to 14 Fahrenheit)</p>   																		

b.北海道宝島旅行社 基本事項

About us

Hokkaido Treasure Island Travel

We are Hokkaido Treasure Island Travel (HTIT), an award-winning team of creators of unique, perfectly tailored Hokkaido travel experiences. HTIT Team is deeply rooted in Hokkaido, North Japan. In 2004, HTIT started its journey as a pioneer of a new style of adventure travel by sharing the treasures of Hokkaido. We are constantly opening new doors and making local destinations previously inaccessible for travelers available all over Hokkaido. We provide a compelling combination of personal and professional travel advice, knowledge beyond that of the guidebook insider, and behind the scenes access to places and authentic local experiences generally not available for the public. Our mission is to create for you a journey of a lifetime, every time you travel with us.

What We Offer As Our Services

Small Group

We find value in maintaining friendly, small-group settings. That's why we cap the maximum number of our groups at 10 people on scheduled tours. This allows us to reduce the social and environmental impacts caused by our travels, as well as giving us the opportunity to visit smaller facilities, which often give us more interesting insights and unique experiences.

Local Guides

Our guides are passionate travellers and adventurers themselves, who spend their free time exploring Hokkaido's great outdoors all year around. Feel free to make use of their knowledge and experience by asking questions! They are also certified as advanced first-aiders and trained to respond to emergency situations on tours.

1

Disclaimer

Public Notice No. 1593 by the Ministry of Land, Infrastructure and Transport
This is an official announcement of the following revision concerning all terms and conditions of the standard general conditions of travel agency business (Public Notice No.790 by the Ministry of Transport dated December 19, 1995) as stipulated in Article 12-3 of the Travel Agency Law (Law No. 239 of 1952) December 16, 2004
Kazuo Kitagawa, Minister of Land, Infrastructure and Transport

Final revision: March 29, 30th Year of Heisei – 2018
Public Notice No. 9 by the Japan Tourism Agency (Effective from April 1, 30th Year of Heisei – 2018)

Standard General Conditions of Travel Agency Business

Subscription Type Organized Tour Contract Part

Chapter 1 – General Provisions

(Scope of Application)

Article 1 The Contract of our Company (hereinafter referred to as "We," "Us," or "Our" as the case may be) concerning the subscription type organized tour to be executed with the traveler (hereinafter referred to as the "Subscription Type Organized Tour Contract," or "Contract") shall be based on the General Conditions. In the case that any matter not stipulated in the General Conditions arises, ordinance or generally established practice shall be applied.

2 In cases where we execute a special contract (hereinafter referred to as the "Special Contract") with the traveler in writing without violating the relevant law and harming the interests of the traveler, such Special Contract shall be given priority, notwithstanding the provision of the preceding paragraph.
(Definition of Terminology)

Article 2 In the General Conditions, "Subscription Type Organized Tour" or "Tour" shall mean such tours for which we prepare beforehand for subscription by travelers, travel plans including destinations, itineraries, transportation services and accommodation services to be offered to travelers, as well as the Tour Price amount (as defined in Article 11 below) payable to us by travelers, which shall be implemented as planned.

2 In the General Conditions, "Domestic Trip" shall mean trips within Japan only, and "Overseas Trip" shall mean those trips other than a Domestic Trip.

3 In this Part, the "Communication Contract" shall mean the Subscription Type Organized Tour Contract, which is executed between us and a said member of the credit card company affiliated with us, or the company marketing our Subscription Type Organized Tour on behalf of us (hereinafter referred to as an "Affiliated Company") by subscription through telephone, mail, magazine, or other means of communication, subject to prior consent of the traveler to the effect that the claims or obligations held by us, such as the Tour Price to the traveler based on Subscription Type Organized Tour Contract are settled on or after the due date of such claims or obligations according to said membership rules as provided separately by the Affiliated Company, and also subject to payment of the Tour Price, etc. payable under the said Subscription Type Organized Tour Contract according to the methods specified in Article 12, paragraph 1, the latter part of Article 16, paragraph 1 and Article 19, paragraph 2.

2

Schedule I - Cancellation fees (related to Article 16, paragraph 1)

1. Cancellation fees related to Domestic Trip

Classification/Calculation	Cancellation Fee
Subscription Type Organized Tour Contract including the following cases 1	
(1) In cases where the Contract is cancelled on or after the 20th day (the 10th day in the case of a day trip) from the day immediately preceding the starting day of the Tour (except in the following cases from (2) through (5)).	Up to 20% of the Tour Price
(2) In cases where the Contract is cancelled on or after the 7th day from the day immediately preceding the starting day of the Tour (except in the following cases from (3) through (5)).	Up to 30% of the Tour Price
(3) In cases where the Contract is cancelled on the day immediately before the starting day of the Tour.	Up to 40% of the Tour Price
(4) In cases where the Contract is cancelled on the starting day of the Tour (except in the following case (5)).	Up to 50% of the Tour Price
(5) In cases where the Contract is cancelled after the start of the Tour or the traveler does not participate in the Tour without notice (in short).	Up to 100% of the Tour Price
1. Subscription Type Organized Tour Contract with the use of a refundable receipt	Based on the rules of the cancellation fee for the said receipt

Remark: ① The amount of the cancellation fee shall be specified in the Contract Document.
② In applying this Schedule, "Tour the Start of the Tour" refers to after "The time when the traveler starts receiving the receipt" stipulated in Article 2, paragraph 1 of the Rules of Special Itinerary, as attached herein.

11

Schedule II - Monetary Indemnity for Alterations (related to Article 29, paragraph 1)

Alterations Requiring Payment of Indemnity (Percentage)	Percentage (per Case (%))	
	Prior to the start of the Tour	After the start of the Tour
(1). Alterations to the starting or final days of the Tour described in the Contract Document	1.0	3.0
(2). Alterations of signage locations or facilities (including restaurants) and other destinations of the Tour	1.0	2.0
(3). Alterations to the class or facilities of transportation facilities to those of lower rates than those described in the Contract Document (but limited only to cases where the total charge amount for altering the said class and facilities falls below the total amount for that as specified in the Contract Document)	1.0	2.0
(4). Alterations to the class or the transportation facilities in the names of companies as specified in the Contract Document	1.0	2.0
(5). Alterations to different flights at the departure airport or destination airport in Japan from those as specified in the Contract Document	1.0	2.0
(6). Alterations/additions to connecting or indirect flights as needed to supplement/replace direct flights scheduled to fly between Japan and outside of Japan	1.0	2.0
(7). Alterations of the type or name of accommodation facilities as specified in the Contract Document	1.0	2.0
(8). Alterations to the conditions of guest rooms as specified in the Contract Document, such as the type of guest rooms, equipment, laundry, etc.	1.0	2.0
(9). Alterations in the items as specified in the tour title of the Contract Document, among the alterations specified in each item (except from (1) through (8) above)	2.5	5.0

Note 1. "Prior to the Start of the Tour" shall refer to cases where the traveler has been notified of the relevant alteration, no later than the day prior to the starting day of the Tour, and "After the Start of the Tour" shall refer to cases where the traveler has been notified of the relevant alteration on or after the starting day of the Tour.

Tour Operator / Contact

Hokkaido Treasure Island Travel Inc.
9F Daito Bldg, Mimami 2-jo Higashi 2-chome 8-1, Chuo-ku, Sapporo City, Hokkaido, Japan



14

⑦海外の AT 旅行会社への評価のヒアリング

本業務で造成した行程（モニターツアー用の合体版）を海外 AT 旅行会社へオンライン・メール等で評価していただいた。※プレゼン資料は資料編に掲載

旅行会社名	Action Culture
担当者名	Glenn Murray-Prior
顧客層	25%ベルギー、25%オランダ、25%イギリス、25%スイス FIT やファミリーメイン アウトバウンドメイン
ヒアリング内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 行程はとても良い。スノーシューがメインで分かりやすい。 ✓ Culture&Activities のバランスがよい。 ✓ スノーシューの難易度が重要。Glenn 氏の顧客は、まだスキーツアーやスノーシューツアーに参加し始めたばかりの人が多いため、難易度が低い方が売やすい。 ✓ ヨーロッパはスノーシューのアクティビティは珍しくはないが、まだまだ体験したことない人が多い。スキーツアーやスノーシューツアーは、以前よりも人気が出てきている。 ✓ 行程は、どこで何をするのか、何が見られるのか、Unique Story を書くことが大切。 ✓ Local Knowledge（地元ならではの知識）に一番価値がある。それをアピールした方がよい。

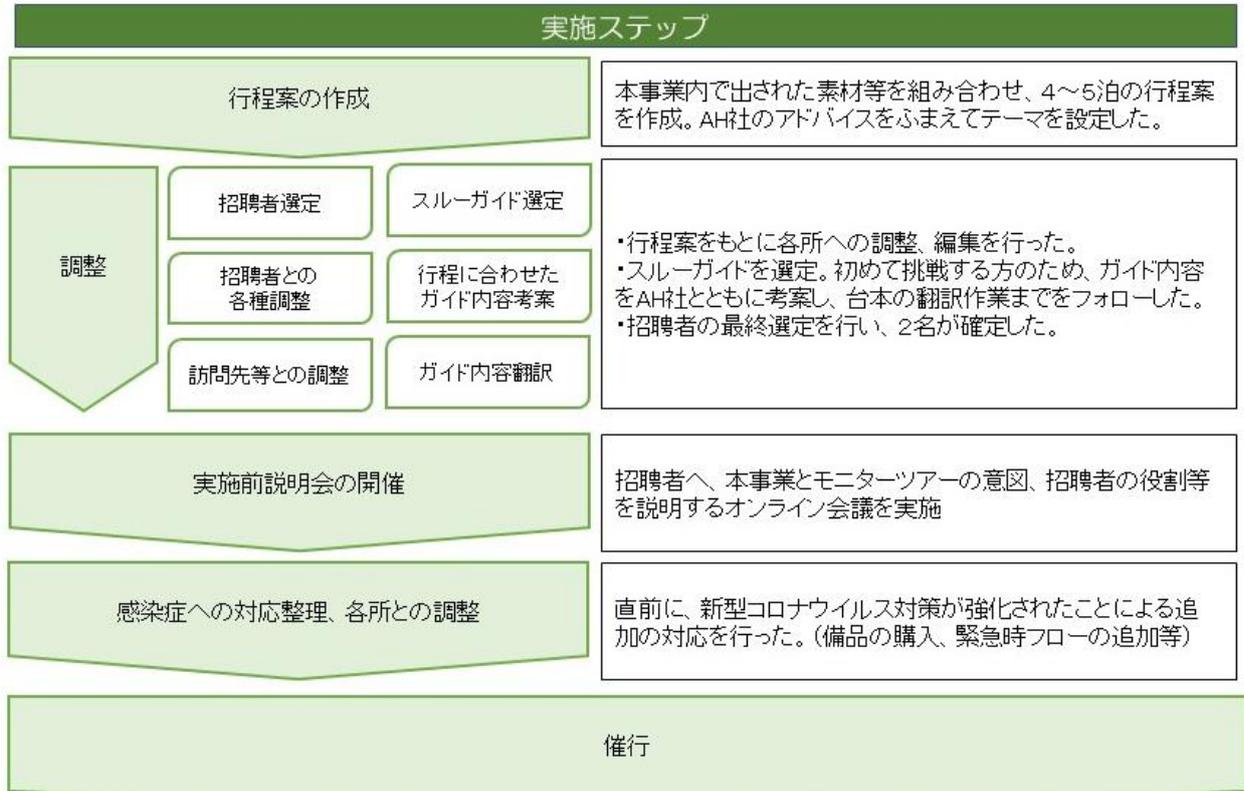
旅行会社名	Finisterra Travel
担当者名	Keri Montgomery
顧客層	アウトバウンド FIT、インセンティブ、募集型 ※ほとんどの顧客がリピーター、もしくは既存顧客による紹介
ヒアリング内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 行程は素晴らしい。Culture, Outdoor activities, Regional Cuisine の要素が入っていて、良いコンビネーション。 ✓ 自分達の顧客には何日か追加して、旅程を長くしたい。

旅行会社名	10 Adventures
担当者名	Giedre Savele
顧客層	75% 北米, 25% ヨーロッパ、45 歳から 50 歳 50% プライベートグループ、50% コレクティブ 90% 自社サイトからの流入 10% その他 OTA 専門の大手旅行会社 日本未販売、ヨーロッパのイタリアフランスが人気
ヒアリング内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ とても素晴らしい行程だと思う。 ✓ スノーシューだけではなく、歴史的要素も加わっているのがよい。歴史的要素は、外国人旅行者に PR できる要素だと強く思う。

	<ul style="list-style-type: none">✓ 冬のアクティビティについて、ローカルガイドやローカルオペレーターが彼らの保険に入っていること、そしてガイドやツアーリーダーが完全に研修を終えている（日本の基準を満たしている）ことを 10 Adventure は求める。✓ この行程を見て、（ガイド資格は別として）送客するにあたり、特に心配することはない。✓ 北海道の自然や野生動物はユニークだと思う。文化的要素はとても魅力的（exotic という表現をしていた）。
--	---

(2)モニターツアーによる検証 [実施日:2022年1月24日~1月28日]

作成したモデルツアーが実際に AT 旅行者に受け入れられるのか、また旅行会社として販売しやすい商品であるのかの検証を行うため、日本に本社や支社がある AT 旅行会社を招聘し、モニターツアーを行った。ツアー作成から催行までのステップは以下のとおりである。



なお、本事業で両 DMO から育成対象として提示されていたメンバーは、単独でスルーガイドができるだけのスキルが身につけていないことから、アドバイザーである Adventure Hokkaido のスタッフが全日随行することと、北海道宝島旅行社も添乗員 2 名体制で行うことでバックアップした。

また、北海道全域が 1 月 27 日からまん延防止等重点措置の対象地域となったことから、飲食店での酒類提供の中止、公共施設の町民以外の利用停止などの緊急時に対応するとともに、より一層の感染対策を心がけた。

① 招聘者へ向けた説明会の実施

■ 実施概要

日時	令和3年11月12日（金）13:30～15:50
会場	◇オンライン開催（事務局は京王プレリアホテル札幌にて）
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 招聘者 ・ （一社）大雪カムイミンタラ DMO ・ 丘のまちびえい DMO ・ Adventure Hokkaido 合同会社
目的	モニターツアーに参加するにあたっての事業趣旨の説明、事前の情報共有と不安な点の解消を目的として実施。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ① 司会挨拶 ② 主催者挨拶 ③ モニターツアーの趣旨説明・持ち物確認 ④ 質疑応答・終了

■ 招聘モニター プロフィール

	イメージ	所属、名前、情報
1		<p>インアウトバウンド仙台松島株式会社 <u>Quinlan Faris 氏</u></p> <p>アメリカ出身。岩手県在住。自身のYouTubeチャンネル「Go North Japan」を運営。東北観光推進機構と連携し、東北のアドベンチャートラベルの商談に出席したほか、みちのくトラベルと連携しツアー造成なども行っている。その他個人で翻訳やガイドの仕事、モデル業、岩手県にて自身のAirbnbも運営している。</p>
2		<p>THE J TEAM 株式会社 <u>Philippe Wauquaire 氏</u></p> <p>ベルギー国籍。京都在住。同社でMICEなどの招致に取り組むほか、専任でFITの誘客を行っている。前職もFITに特化した旅行会社に在籍経験があり、海外の旅行者事情に詳しい。</p> <p>自身でもカフェ巡りツアーを企画したり、MTBを楽しむほか、北海道の富良野でのスキーを楽しむなど、アクティビティに精通している。</p>

■参加者一覧(敬称略・順不同)

参加者(招聘者)		
氏名	所属	役割・役職等
Geraint Holt	THE J TEAM 株式会社	代表取締役社長 (Philippe Wauquaire 氏が PCR 検査で不参加のため代理)

参加者(地域側)		
氏名	所属	役割・役職等
小泉 暁	丘のまちびえい DMO	ガイド候補 (研修生)
柏葉 雄貴	(一社) 大雪カムイミンタラ DMO	マネージャー
何 雨庭	(一社) 大雪カムイミンタラ DMO	コーディネーター

参加者(アドバイザー)		
氏名	所属	役割・役職等
吉川 彩香	Adventure Hokkaido 合同会社	代表、コーディネーター、ガイド、ファウンダー

事務局	
氏名	所属
森 恭兵	北海道運輸局観光部観光企画課
経田 直哉	北海道運輸局観光部観光地域振興課
佐々木 岳人	北海道運輸局観光部観光企画課
小濱 有希子	(株)北海道宝島旅行社 (実施責任者)
雨池 さやか	(株)北海道宝島旅行社
池田 かおり	(株)北海道宝島旅行社

※なお、インアウトバウンド仙台松島の Quinlan Faris 氏は、合同説明会当日に急遽不参加となったため、後日単独で説明を実施した。

参加者(招聘者)		
氏名	所属	役割・役職等
Quinlan Faris	インアウトバウンド仙台松島株式会社	ガイド

事務局	
氏名	所属
小濱 有希子	(株)北海道宝島旅行社
雨池 さやか	(株)北海道宝島旅行社

②モニターツアー実施

■参加者一覧(敬称略・順不同) ※一部のみ参加の研修員も記載

研修員		
氏名	所属	役割・役職等
☆石黒 康太郎	(株)とうま振興公社	スルーガイドに挑戦
小泉 暁	丘のまちびえい DMO	ガイド候補生(英語)
泉 剛生	丘のまちびえい DMO	事業担当者・コーディネーター・ガイド
柏葉 雄貴	大雪カムイミンタラ DMO	事業担当者
何 雨庭	大雪カムイミンタラ DMO	コーディネーター候補

講師・スルーガイドフォロー		
氏名	所属	役割・役職等
吉川 彩香	Adventure Hokkaido 合同会社	代表、コーディネーター・ガイド・ファウンダー
鳥羽 晃一	Adventure Hokkaido 合同会社 ／ガイドオフィス風	スルーガイド

事務局	
経田 直哉	北海道運輸局観光部観光地域振興課
小濱 有希子	北海道宝島旅行社(ツアーリーダー)
池田 かおり	北海道宝島旅行社(添乗員・英語サポート)

※車両…旭川電気軌道株式会社

公益社団法人日本バス協会「貸切バス事業者安全性評価認定制度」3つ星取得事業者

■モニターツアー行程表（プログラムシート版）

団体・活動名	冬季ATツアー造成モニター	日程	1～2日目	人数	10名程度
ねらい	形成年代の異なる自然をスノーシューで渡り歩き、大雪エリアの自然環境や地形、産業について知る		フィールド	旭川、当麻	
タイトル・コンセプト	Mountain to the City 4-Days snowshoe tour ～4つの形成年代の異なる自然を渡り歩くジオスノーシューツアー～		スタッフ	スルーガイド 石黒康太郎（デビュー！） サブガイド 吉川彩香 サポート 小濱有希子	

進行表

日時	活動内容・押さえるべき言動（セリフ）・その他	準備物・ゲスト持ち物
事前	各種予約確認	
1日目	ゲストは各自ホテルへ ◇18時頃ホテル待合せ ワイズホテル旭川駅前（連泊）	
18:00	ホテルロビー集合	・外に出るのでコート／帽子／手袋があればよい。
18:15	夕食兼ブリーフィング ◇夕食「忒乃雪屋」和食 翌日の催行・不催行（荒天の判断） ★天候を見てタクシー手配 行程の最終確認	
2日目	旭川駅（or ホテル）集合 ◇コーヒー等購入可能	
08:45	旭川駅発	
09:00	川村カ子トアイヌ記念館 ◇チセの説明 ◇日本で唯一・最古の私設アイヌ博物館。川村カ子ト氏のご家族が運営している ◇上川アイヌの人々の暮らしがこのエリアの根底にあることを知ってもらう ◇外観はアイヌ彫刻家故砂澤ビッキ氏の手によるもの	
10:30	終了／移動	
11:30	昼食 道の駅とうま御食事処 ◇移動中にメニューを配り注文をとり事前連絡	
12:30	終了／移動	
13:00	当麻鍾乳洞 着 ◇鍾乳洞までの行き来片道約1kmがスノーシュー使用 ◇野生動物の足跡、北海道らしい樹木などを楽しむ ◇1億5千万年前のジュラ紀に誕生した ◇高砂酒造で醸した日本酒を鍾乳洞内で寝かせる	服装 ・ダウンジャケット、またはスキーウェア上下などの暖かい服装・スノーブーツ・帽子・手袋・サングラス等あればよいもの ・双眼鏡 ・カイロ

15:00	当麻鍾乳洞終了／ホテルへ移動	◇翌日の催行・不催行の確認 ★翌日ランチの注文をとる	
16:00	自由時間（ホテル）	◇ゲストの希望を伺って食事場所を対応する	
18:00	旭川市内 夕食 ・食事内容のアナウンス／なぜ、この食事なのかのアナウンス ・翌日の服装、行程の確認	◇翌日の服装／行程の確認 ・天気／気温 ・ストーリー（なぜこの行程か、ハイライトの伝達）	・外に出るのでコート／帽子／手袋があればよい。

団体・活動名	冬季AT ツアー造成モニター	日程	3日目	人数	10名程度
ねらい	形成年代の異なる自然をスノーシューで渡り歩き、大雪エリアの自然環境や地形、産業について知る		フィールド	東川、美瑛	
タイトル・コンセプト	Mountain to the City 4-Days snowshoe tour ～4つの形成年代の異なる自然を渡り歩くジオスノーシューツアー～		スタッフ	スルーガイド 石黒康太郎（デビュー！） サブガイド 鳥羽晃一、小泉暁 サポート 小濱有希子	

進行表

日時	活動内容・押さえるべき言動（セリフ）・その他	準備物・ゲスト持ち物
3日目		
07:15	ホテルチェックアウト	
07:30	旭川駅集合～出発	・バス移動約1時間 服装 ・ダウンジャケット、またはスキーウェア上下などの暖かい服装・スノーブーツ・帽子・手袋・サングラス等
08:30	旭岳ロープウェイ 着	※風が強い可能性があるため防風対策をしっかりと！ あればよいもの ・双眼鏡 ・カイロ
09:00	旭岳ロープウェイ 乗車 旭岳噴気孔 or 鴨沼スノーシュー	◇バス移動約1時間 服装 ・ダウンジャケット、またはスキーウェア上下などの暖かい服装・スノーブーツ・帽子・手袋・サングラス等
13:30	終了／移動	◇身軽な格好になってOK
14:00	昼食 ハルキッチン	◇ハンターの資格を持つ女性が営む小さなレストラン ◇エゾシカとの共存に関するお話を聞きながらいただく
15:15	終了／移動	◇翌日の昼食注文をとる
16:00	丘のまち郷土学館「美宙」 着	◇美瑛町の歴史のほか、大雪山国立公園内にある十勝岳のジオ的ストーリーと、それに翻弄さ

		れつつも共存する人々の話 ◇翌日のスノーシューの前段	
17:00	終了/移動	※ホテル付近にコンビニなし	
17:30	白金温泉 ホテルパークヒルズ着 チェックイン後、温泉入浴～夕食 ・食事内容のアナウンス/なぜ、この食事 なのかのアナウンス	◇ゲスト・スルーガイド・添乗員 1名下車、白金温泉泊 ※添乗員1名は旭川へ ◇翌日の服装/行程の確認 ・天気/気温 ・ストーリー(なぜこの行程か、 ハイライトの伝達)	
18:30	バス 旭川駅着、解散	◇翌日の服装/行程の確認 ・天気/気温 ・ストーリー(なぜこの行程か、 ハイライトの伝達)	

団体・活動名	冬季AT ツアー造成モニター	日程	4日目	人数	10名程度
ねらい	形成年代の異なる自然をスノーシューで渡り歩き、 大雪エリアの自然環境や地形、産業について知る		フィールド	美瑛、旭川	
タイトル・ コンセプト	Mountain to the City 4-Days snowshoe tour ～4つの形成年代の異なる自然を渡り歩くジオス ノーシューツアー～		スタッフ	スルーガイド 石黒康太郎(デビュー!) サブガイド 鳥羽晃一、小泉暁 サポート 小濱有希子	

進行表

日時	活動内容・押さえるべき言動(セリフ)・その他	準備物・ゲスト持ち物
4日目		
08:30	(旭川泊組) 旭川駅集合～出発	服装
09:30	(美瑛泊組) ホテルロビー集合、チェックア ウト ※ホテル駐車場からスノーシュースタート	・ダウンジャケット、または スキーウェア上下などの暖 かい服装・スノーブーツ・帽 子・手袋・サングラス等 あればよいもの
10:00	白金の森&ブルーリバーズスノーシュー ◇大正泥流(1926年)のあとに 形成された、80歳の若い森 ◇十勝岳火山活動の影響を防ぐ 人工物が生み出した景色へ	・双眼鏡 ・カイロ
12:00	終了/移動	◇身軽な格好になってOK
12:30	昼食 駅に見えるレストラン こえる	◇美瑛町民も愛する地元レスト ラン ◇前日までに注文をとる
13:15	終了/移動	※少し早めに食事を終える ◇高砂酒造へ到着予想時刻電話
14:00	高砂酒造 着 工場見学～試飲	◇旭川の発展とともに発達して きた「醸造」産業 ◇持ち物不要 ・2つの建物を外を歩いて

	※AH 吉川ガイド合流	◇1899年創業、旭川で4番目の酒蔵	移動するので軽い防寒着
16:00	終了/移動		
16:15	ホテル WBF グランデ旭川 着 チェックイン後、休憩 バスは旭川駅前へ、解散	◇洗濯など自由時間	
18:15	ホテルロビー集合、徒歩移動(3分)		・外に出るのでコート/帽子/手袋があればよい。
18:30	大雪地ビール館 farewell party	◇翌日の服装/行程の確認 ・天気/気温 ・ストーリー(なぜこの行程か、ハイライトの伝達)	

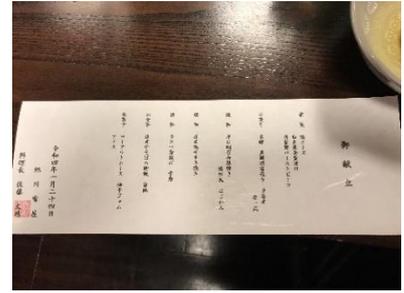
団体・活動名	冬季 AT ツアー造成モニター	日程	5日目	人数	10名程度
ねらい	形成年代の異なる自然をスノーシューで渡り歩き、大雪エリアの自然環境や地形、産業について知る		フィールド	旭川(終了後、網走へ)	
タイトル・コンセプト	Mountain to the City 4-Days snowshoe tour ～4つの形成年代の異なる自然を渡り歩くジオスノーシューツアー～		スタッフ	スルーガイド ー サブガイド 荒田康仁、尾櫃由香 サポート 小濱有希子	

進行表

日時	活動内容・押さえるべき言動(セリフ)・その他	準備物・ゲスト持ち物
5日目		
09:30	ホテルロビー集合、チェックアウト	服装 ・ダウンジャケット、またはスキーウェア上下などの暖かい服装・スノーブーツ・帽子・手袋・サングラス等あればよいもの ・双眼鏡 ・カイロ
09:45	旭川駅集合～バス乗車	
10:00	北方野草園 着 アイヌの聖地「チノミシリ」 嵐山スノーシューハイキング	
		◇初日に訪れた、川村記念館の人々も大切にしている「上川アイヌの聖地」 ◇旭川市民にとっても身近なハイキングルート ◇旭川を一望＝このツアーで巡ったところが見える
12:30	終了/移動	◇身軽な格好になってOK
13:00	旭川駅着 大雪ルートチーム 解散 ・ランチはこのあとの移動途中でとります	◇スノーシューを待機している 宝島車へ積み替える ◇ゲストは同じ車両で網走へ

■当日の様子

Day1 1/24 集合～ブリーフィング



和食料理店「式乃雪屋（にのゆきや）」でブリーフィングを兼ねた顔合わせ。酒類提供なし、不足箇所に対するパーテーションの設置を行った。漁師は北海道らしい食材（写真中央はかすべのから揚げ）をふんだんに使っている。初日の食事で、ゲストの食の嗜好や食事量が読めるので、コーディネートする側としては、後行程への工夫がしやすくなった。

【参加者意見】

- ・国内であっても移動日は非常に疲れるので、食事のみ、というスケジュールはとても良い。（ゲスト兩名）
- ・翌日からのチームの顔合わせとして、食事をとりながらのブリーフィングはリラックスできる。（ゲスト兩名）

Day2 1/25 ホテルロビーでミーティング



ホテルロビーで全員ミーティング。昨日夕食をともにしているので、リラックスした雰囲気です。スタートできた。宿泊場所の「ワイズホテル旭川駅前」は旭川駅ロータリーに隣接した立地のため、移動のストレスがなく非常に使い勝手が良い。ゲストにはツインルームをシングルユースでお使いいただいたが、スーツケースを広げる十分なスペースがあり、バスルームもバスタブ付きで広いため、大浴場を利用されない場合でも安心してお勧めできる。

右写真は、ホテルロビーにあった旭川の鳥瞰図。これを見ながらブリーフィングもできる。

Day2 1/25 川村カ子トアイヌ記念館



チセの中での交流会。焚火を囲んでの川村久恵さん（カ子ト氏のご子息（故人）の奥様）との懇談というシチュエーションが好評だった。チセの後は資料館へ。久恵さんの説明付きでアイヌの文化、暮らしに使う道具や植物、考え方に触れる。ゲストからは盛んに質問が出された。

【参加者意見】

- ・焚火を囲んで伝統的な建物の中での交流は、最高に雰囲気が良い！（ゲスト兩名）
- ・ただし非常に寒かった。もっと短くて良い。（ゲスト兩名）
- ・川村久恵さんの話は、もう少しストーリー立てるか、その日のテーマを絞って話す方がよいように感じた。（ゲスト兩名）
 - これに関しては、プログラム提供者である Adventure Hokkaido 吉川氏より「川村久恵さんの言葉で、その時の雰囲気で感じ取ってもらいたいものがある。あえて誘導しないようにしている」とコメントがあった。
- ・もっと何か体を動かす、何かをしながら話を聞く…という演出をするとよい。（話を聞くだけの時間が長かった）（Quinlan 氏）

Day2 1/25 ランチ(道の駅とうま 食事処で軽食)



予定していた食事処が感染症の影響で休業し、急遽変更。12月のガイド研修時の「料理を絞る」というアドバイスに従い、ガイドからおすすめを提示。

Day2 1/25 当麻鍾乳洞スノーシューツアー



当麻鍾乳洞は、冬季閉鎖されている観光スポット。冬季の管理をスルーガイドの石黒氏が務めるとうま振興公社が任されているため、町の許可を得てガイドツアーを実施している。

ただ、冬季閉鎖のため、大きな道路から鍾乳洞の駐車場までの農道の除雪がされないため、鍾乳洞入り口まではスノーシューで進む。樹木や動物の痕跡を楽しみながら進んだ。ゲストはようやくのスノーシューに喜んでいて。ライトアップの影響で鍾乳石に影響が出てしまったという失敗をもとに、光源の改良などを行っているという話を聞いてゲストもうなずいていた。帰りは石黒ガイドの機転で、異なるルートを通り、最後は小高い丘から走り降りるという身体的アクティビティを追加した。

【参加者意見】

- ・「ケービングツアー」というと、もっとハードなアクティビティを想像する。ネーミング再考。(ゲスト兩名、AH社)
- ・石黒氏のガイドは非常に熱意があってよかった。(全員)
- ・アクティビティ自体がハードではないので、最後に丘を駆け降りたのはAT的に良かった。どんなプログラムでも、フリーに体を動かせる時間を設けることで満足度が上がる。(Quinlan氏)

Day3 1/26 旭岳スノーシュー(噴気孔コース)



ガイドは Adventure Hokkaido / ガイドオフィス風の鳥羽氏。ロープウェイ駅頂上の気温マイナス13℃、風3mと天候に恵まれ、無事に噴気孔コースへ行くことができた。噴気孔だけでなく、カルデラを滑り降りたり登ったり、安全な噴出口で温かさを体感したりと、フィールドを知り尽くしたガイドにこそできる内容であった。休憩のおやつは、Adventure Hokkaido 吉川氏手作りのカップケーキと、同社のある東川町の自家焙煎珈琲店のコーヒー。

【参加者意見】

- ・ちょうどよい強度のアクティビティ。(Philippe 氏)
- ・人によっては物足りない、ピークまで行かないのがもったいないと感じるかもしれない。この日くらいの気候(マイナス13℃、風3m程度)であれば、もっと長くてもいい。(Quinlan 氏)
- ・休憩のおやつが AH 社吉川氏(当日不在)の手作り。サプライズプレゼントのようでよかった。(宝島小濱)

Day3 1/26 大雪旭岳源水公園(立ち寄り)



大雪旭岳源水公園の川の上流。スノーシューを外してつぼ足で歩いた。ランチまでの時間調整で訪問。予約不要のコンテンツを持っておくところのような時に役立つ。

【参加者意見】

- ・ちょっとした隙間時間に訪問するのにちょうどいい難易度と所要時間。(Philippe 氏)

- ・こういったコンテンツを持っていることは強みになる。ただし前後のストーリーもつながるコンテンツであることが重要。(Phillipe 氏)
- ・あえてスノーシューで行かなかったことで、スノーシューの大切さに気付かされた。ただ、足をひねるなどの怪我の可能性も出てくるため、ゲストの経験値等を鑑みて、スノーシューを使うべき場合もあると思う。(宝島池田)

Day3 1/26 ランチ ハルキッチンでエゾシカプログラム

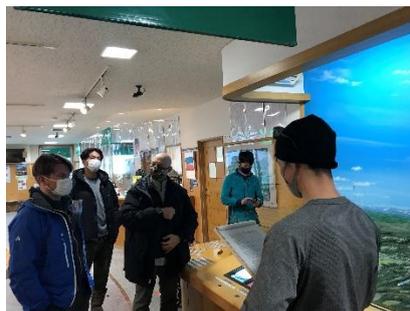


ハンターの女性が営むエゾシカ料理のレストラン。ハンターとしての生き方などを食事をしながら伺う。料理の一部。ツアー初日の夕食で、ゲスト1名ができれば肉を避けたいということがわかり、できる限りの対応をしてくださった。

【参加者意見】

- ・非常に料理がおいしかった！雰囲気も最高。(ゲスト兩名)
- ・まるで友人の家でもてなされているような感覚。こういったローカルなレストランが魅力的。(Phillipe 氏)
- ・オーナー(岩淵亜弓子氏)が非常にクレバー。受け答えが明確で話していて楽しい。(ゲスト兩名)

Day3 1/26 美瑛町 丘のまち郷土学館「美宙」ゲートウェイプログラム(四季の情報館にて)

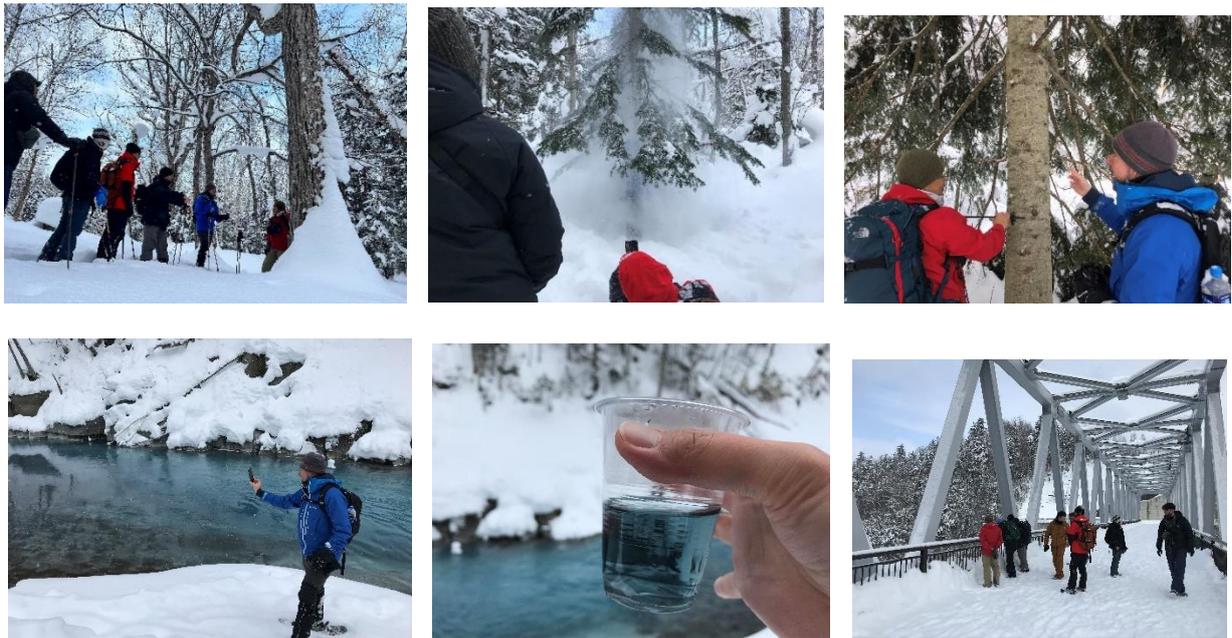


郷土資料館「美宙」が感染症対策で使用できなくなったため、観光案内所「四季の情報館」で美瑛町のゲートウェイプログラムを実施した。丘のまちびえい DMO の小泉氏の初ガイドの訓練。

【参加者意見】

- ・やはり、ガイドが前に立ってゲストが話を聞いているだけというスタイルはATには向かない。感染症対策で、訪れるべき施設が使えなかったための代案としたため仕方がないが、ガイド技術でカバーできるようにする必要がある。

Day4 1/27 白金の森&ブルーリバーズノーシュー



ガイドは Adventure Hokkaido / ガイドオフィス風の鳥羽氏。丘のまちびえい DMO の小泉氏がサポートし、同 DMO のプログラムのガイド内容を挟み込んでより良いプログラムになるよう協力した。これまでの開けた場所でのノーシューから一転、森の中へ入り込む。

上中央の写真は、木を揺らして雪をかぶって遊んでいるようです。「禊（みそぎ）」と呼ぶことで日本らしい体験に演出。ゲストは禊という言葉と概念を知ることができる。

青い川に到着。十勝岳の噴火活動による成分が溶け込んでいることなどをガイドから説明した。休憩で配られたのは「バタフライピー」というハーブティー。特につながりはないが、「青を演出する要素として、丘のまちびえい DMO のプログラムで提供されているもの。

なおゲスト以外は、12月の研修では丘のまちびえい DMO の小倉氏のガイドで行っているコースであったため、鳥羽氏のガイディングとの違いも楽しんでいた。

右下の写真は、ブルーリバーにかかる橋。今まで歩いた場所を上から見て、終了。

【参加者意見】

- ・ちょうどよい強度のアクティビティ。(ゲスト兩名)
- ・昨日のゲートウェイプログラムとのつながりがよくわかった。(火砕流の影響で一度なくなった森であること、避難経路とこの川の関係、砂防ダムが生み出した奇跡の景色など)(ゲスト兩名)
- ・せっかくなら、スコップなどを持って行って、雪のテーブルと椅子を作ってお茶を飲むなどの演出をするといい。他のノーシュープログラムでも同様。(Quinlan 氏)
- ・12月の研修では、美瑛の小倉ガイドのアテンドで行ったコース。鳥羽ガイドのガイディングは小倉ガイドとの違いが明確にあって、非常に興味深かった。(他参加者全員)

Day4 1/27 高砂酒造 酒造見学ツアー&地酒の試飲



旭川市の酒造の一つ、高砂酒造の見学。廣野部長による詳細な工程説明と、高砂酒造の酒造りへの想いを伺った。当麻鍾乳洞で熟成させる酒がちょうど絞られており、特別にふるまわれた。(町民でも飲んだことがある人は数人)

【参加者意見】

- ・ただただ読むだけの人もいる中で、廣野さんのガイディングには情熱を感じた。(Quinlan 氏)
- ・作業音が非常に大きくて、ガイドの声が届かないのは問題。時間をずらす、マイクを使用するなどの工夫が必要。(ゲスト兩名)
→酒造が公式に行う見学ツアーより1時間早く行ってもらっている。通常のツアー時間であれば、作業音が改善される可能性がある。(宝島小濱より補足)
- ・酒蔵ツアーの面白さは、英語で説明してくれる人のキャラクター・カリスマ性にかかっている。(Quinlan 氏)
- ・高砂酒造のことだけでなく、「日本酒造りの基本」が分かりやすく、詳細に説明されるのが良い。(Quinlan 氏)
- ・試飲の方法はもっと面白くできる。(ゲストが) 過去に参加したものでは、「同じ銘柄の酒米違いなどの飲み比べ」などがあった。そうすると、日本酒づくりの工程の意味が理解できる。(Quinlan 氏)
- ・米麴を見せてもらったり、ちょっと食べさせてもらったりすることはすぐ対応できそう。ワンポイントでレベルアップできるところ。(Quinlan 氏)

※Quinlan 氏のコメントが中心なのは、彼が国際利き酒師の資格を持っており、知見が豊富だったためである。

Day4 1/27 フェアウェルパーティー(大雪地ビール館)



醸造産業のつながりで大雪地ビール館でジンギスカンの夕食。ジンギスカンも、旭川が軍都であったことから生まれたという説もあり、一貫したストーリーの中で最後の夕食場所を選定したものである。ただし、感染症の影響で酒類提供中止でビールは味わえなかった。(試飲も中止) このアルコール提供中止の件は当日のランチ中に電話があり、ゲストへお詫びと共に通達した。

【参加者意見】

- ・ジンギスカンが美味しい。その他料理もあり、建物の雰囲気も良い。(ゲスト兩名)
- ・ホテルから歩いて行ける距離なのがよい。(ゲスト兩名)
- ・感染症対策とはいえ、ビールの試飲すらできないのは、わざわざ地ビール館に行く理由がなくなってしまう。(ゲスト兩名)

Day5 1/28 嵐山スノーシューハイク



アイヌの聖地をツアーの最後に訪問。ガイドは Adventure Hokkaido/TREE LIFE の荒田氏・尾櫃氏。登山ガイドである荒田氏の山の楽しみ方に参加者も興味津々。山歩きのコツや危険なポイントなども織り込まれた。頂上の展望台からは、旭川市や大雪山が一望できる。このツアーで訪れた場所を高い場所から見下ろし、振り返ることができるため、エンディングには最適な場所。休憩時に提供されたのは、この山で秋に拾った「ホオの実茶」。乾燥させて煮出すもので、今回は煮出す工程をその場で実践してくれた。アイヌの人々もこうして飲んでいたというエピソードや、美味しい煮出し時間など、実践に基づいた話をしてくれた。

【参加者意見】

- ・また違うガイドによる案内が体験できてよかった。(ゲスト両名)
- ・ちゃんと、初日のアイヌの方々の暮らしの話とストーリーが繋がっていた。(Quinlan 氏)
- ・嵐山自体は、ツアーの最初に訪れても良いと思う。(Phillipe 氏)
→夏はツアーの最初にブリーフィング的に訪れてもよいが、冬は天候の影響で曇りがちなので、訪れていない場所を想像するのは難しいため最後に持ってきた方がよい。(AH 社)
- ・フリーで歩かせてくれたのが良かった。(Quinlan 氏)
→ただし、ガイドとしては安全管理義務がある。どこからどこまでが歩いていても安全かを把握する必要があるため、やはり山歩きはフィールドワークをこまめに行っておく必要がある。(AH 社)

【ゲストより全体を通してのコメント】

- ・アクティビティと文化体験のバランスが非常に良かった。ただ、ATとしてはもっとアクティビティの強度を求める層もいると思う。それに対応できるかどうか、検討が必要。(Quinlan 氏)

◎最終夜の段階では、ストーリーのつながりはまだ見えていない。(ゲスト両名)

- ・ストーリーを作るのはツアーを終えてからが良いと思う。参加者自身がじっくり思い出し、自分なりに結び付けること。(philippe 氏)
- ・火山などのジオを中心とした大昔の話、アイヌと明治維新からの歴史の話、と、2つのストーリーを認識した。例えば高砂酒造も、明治維新の時に福島から移り住み…ということを知ったら、ちゃんとつながっているのだと認識できた。だからストーリーはちゃんと存在するが、発信しきれていないと思う。(Quinlan 氏)
- ・北海道はこんなに歴史の新しい土地だということを今回認識した。特にアイヌの関係だと、人権問題などの課題もガイディング内容には欠かせない。(Quinlan 氏)
- ・ガイドの話をつまみ聞きの時間はできる限り短くする。歩きながら、動きながら。ブリーフィング的なものに削れるのであれば、移動中の車内でもよい。(Quinlan 氏)
- ・自己変革は人それぞれポイントが違ってくる。その人によって経験値、経験したことが異なるので、どのアクティビティや交流で自己変革が起きるかは分からない。指定するものでもない。(ゲスト両名)
- ・サステナビリティは非常に意識されていた。ただ、何か所かプラスチックのカップを使うところがあった。特に富裕層になると気にする。(ゲスト両名)
→感染症対策で使い捨てにした部分も多い。これは今後の世界的な課題。(宝島小濱)
- ストーリーが出来上がった状態で、ゲストに提供すべきか。それとも、ゲスト自身が感じたことを大切にしてもらうのが良いのか。(AH 社吉川氏より質問)
 - ・非常に良い質問。日本の AT 事業ではストーリーを非常に重視するが、人や国柄によって違うので一概には言えない。(Quinlan 氏)
 - ・ストーリーを与えられていることにより、話をちゃんと聞かない人、より深く聞きたい人とそれぞれ違う。ただ、必要最低限のアウトラインだけ短く最初に伝えて、あとはゲストの感性に委ねる。(Phillipe 氏)
 - ・北海道に対して No Idea なゲストにとっては、アウトラインは必要。(Phillipe 氏)
 - ・明確なアウトラインが公開されていれば、それに興味のあるゲストが来てくれる。販売側としても売りやすい。旅前（セールスの時点）で、伝わるよう準備する。(Phillipe 氏)
 - ・テーマやストーリーが明確であっても、部分的なチェンジは必ず起きると認識しておくこと。レストランの変更、興味のないアクティビティの変更など。(ゲスト両名)

【モニターツアーを通しての所感】

ゲストのフィードバックは非常に的確で、インアウトバウンド仙台松島の Quinlan 氏は、自身がガイドでもあるため、より良いプログラムになるようアイデアを惜しみなく出してくれた。JTeam の Phillippe 氏は、セラー・バイヤーの立場での見せ方のコツを伝授していただいた。

各プログラムに対するフィードバックは、各ガイドカンパニーや施設へ直接お伝えし、今後のプログラムの磨き上げに活かしていただくよう手配した。全体のストーリーテリングに関わる部分は、スルーガイド台本に修正を反映している。

スルーガイドの調査について

スルーガイドチェックシートを用いて、今回のスルーガイドのスキルチェックを実施した。

対象者：石黒 康太郎氏(株式会社とうま振興公社 社員。同社代表は当麻町の観光協会会長でもある)

通常は当麻町内の教育・福祉・観光事業に携わっており、観光協会の立場で当麻町内の資源発掘・プログラム造成を担当。Day2 に訪れた当麻鍾乳洞の日本語ガイドをしている。今回の事業研修に参加し、モニターツアーでのスルーガイドに挑戦した。

旅行会社勤務の経験はなく、有資格者でもないが、ホスピタリティとチャレンジ精神にあふれる人物。英会話力もまだまだ発展途上ではあるが、何とかして伝えようとする、へこたれない精神面の強さがあることから、アドバイザーと協議のうえ、本業務での育成スルーガイドに抜擢したものである。ガイド台本等もまずは自分で下調べをして、弊社とアドバイザーが調整をするという方法を自ら提案し、自身の血肉になるよう努力する面が見られた。

ロングツアーのアテンドは初めてであったが、弊社添乗員やアドバイザーである AH 社の先輩ガイドの仕事ぶりを見て、「この日は自分が挑戦してみたい」と申し出ることもあり、先輩ガイド等からスルーガイド・添乗員等の役割を学んでいくと良いだろう。

結果、ゲストの Phillippe 氏(JTeam)からも、まだまだ勉強不足だが将来有望な人物と評価された。

(3) 販売体制の構築

以下のとおり、現状、両 DMO ともに AT 商品を販売する体制にはない。協議の結果、北海道宝島旅行社を主な窓口として、AT 商品の販売に取り組むこととした。一部のプログラムは、AH 社も独自に販売を進めていく。

■ 各 DMO の現状	
大雪カムイミントラ DMO	<p>● 旅行業登録</p> <p>3 種で登録していたが、旅行業務取扱管理者が不在のため、旅行業登録が必要な業務は行っていない。→2021 年 11 月より採用したが、新社会人であり経験不足・英語対応ができないため、AT 商品を造成・販売できる体制にない。</p>
丘のまちびえい DMO	<p>● 旅行業登録</p> <p>なし。旅行業登録が必要な業務は（一社）美瑛町観光協会（3 種）と連携して実施しているが、広域にわたる旅行商品を造成・販売できる体制にない。</p>

今後の販売体制について	
現段階での販売体制	<p>インバウンドを中心としたテラーメイドの旅行商品を扱っている、北海道宝島旅行社を窓口として販売。販売・造成を北海道宝島旅行社とともに行うことで、将来的な AT コーディネート組織として経験を積むこととする。</p>
将来的な販売体制	<p>最低でも旅行業は 3 種登録または 3 種の業務が展開できることを目標とし、域内の AT 商品の造成・販売ができるコーディネート組織となることを目指す。</p> <p>その場合は、2 種以上の旅行会社と積極的に連携し、地域コーディネーターとしてアドベンチャートラベラーの受け入れに取り組んでいく。</p> <p>※びえい DMO に関しては、3 種を持つ観光協会との業務連携により上記内容の実現を目指す。</p>

+81-(0)50-5534-9420 info@adventure-hokkaido.com Login Register 0

ADVENTURE HOKKAIDO

Home Our Tours Gallery Info About Blog Covid-19 CONTACT US



Heart Of Hokkaido 5 Day Snowshoeing & Culture Tour

Guided overnight tour from Asahikawa

from

¥193,000

The best picks of cultural and winter outdoors experiences in the Heart of Hokkaido. Join us on a Hokkaido snowshoe tour, visiting Mt Asahidake, the Biei Blue River and a limestone cave in Toma.

Tour Duration
5 Day

Accommodation
4 Night

Included Meals
4 Breakfast
3 Lunches
4 Dinner

Book

Overview Itinerary Trip Details Gallery Dates & Prices

Tour Highlights

- Meet and learn about the Ainu, the indigenous people of Hokkaido.
- Explore the ancient Toma Limestone Cave, open exclusively to our group.
- See steam roaring out from spectacular volcanic fumaroles at Mt. Asahidake.
- Use snowshoes to hike through serene forest to Biei's famous Blue River.
- Relax with overnight stays at Asahidake Onsen and Shirogane Onsen.

About the Heart of Hokkaido

Checking in at 2,291 metres (7,500 feet), Mt. Asahidake in Daisetsuzan National Park is the tallest mountain in Hokkaido. Also known as the "Roof of Hokkaido", the mountain has a special place in the hearts of Hokkaido people, including the indigenous Ainu. In winter the breath taking scenery is blanketed in white snow that is shaped by the wind. At the foot of the mighty peak, steam roars seemingly out of the snow, making the scenery all the more dramatic.

In contrast, the charm of Biei lies in its rolling hills and tranquil forests. The iconic Blue Pond gained a worldwide recognition when the image was used as the wallpaper on Apple computers. It's always been a highly popular site to visit in summer, but in winter the frozen waters are covered in snow and the forest is silent. We take advantage of the snow to put on our snowshoes to explore the forest beyond the pond. Our walk takes us to the Biei River, the source of the pond's blue water.

The Toma Limestone Cave is one of the only two limestone caves that exist in Hokkaido and has quickly become one of our favourite local spots. Leaving the snowy landscape behind and descending into the darkness is a thrilling adventure. The cave is usually closed to visitors from October to April. However, thanks to the cooperation of the local town and fellow local guide we have exclusive access to the cave!

Mt. Asahidake, the Blue River and the Toma Limestone Cave are the best-matching winter gems of the area and experiences we'd like you to experience at least once in your lifetime!

Who is this tour for?

- Active travellers who enjoy walking for 3 to 5 hours a day.
- Curious travellers who enjoy a mixture of activities & sightseeing and learning about the regions they visit.
- Winter hikers & snow lovers interested in hiking in snow with the help of snowshoes (No prior experience required).
- Adventurous travellers who enjoy rural hospitality staying in Japanese style accommodations with natural hot springs on site.

Heart of Hokkaido Winter Tour Itinerary at a Glance

*B: Breakfast L: Lunch D: Dinner
Day 1 Meet your group in Asahikawa (D)
Day 2 Visit Ainu Museum & Toma Limestone Cave (B, L, D)
Day 3 Snowshoe in the foothills of Mt Asahidake (B, L, D)
Day 4 Snowshoe to the Biei Blue River (B, L, D)
Day 5 Farewells in Asahikawa (B)



Tour Inclusions

Items that are included in the cost of tour price.

- ✓ 4 Breakfast, 3 Lunches, 4 Dinner
- ✓ 4 Night accommodation on a twin share basis
- ✓ Guided tour & admission fee at the Ainu Museum
- ✓ Guided tour to the Toma Limestone Cave
- ✓ Guided tour to Mt Asahidake fumaroles
- ✓ Return cable car to and from Mt Asahidake
- ✓ Guided tour to the Biei Blue River
- ✓ Guided tour at the Takasago Sake Brewery
- ✓ Snowshoe rental
- ✓ All transport as described in the itinerary
- ✓ English speaking local guide(s)

Not included

Items that are not included in the cost of tour price.

- ✗ Airfare
- ✗ Travel insurance
- ✗ Personal expenses
- ✗ Drinks with included meals

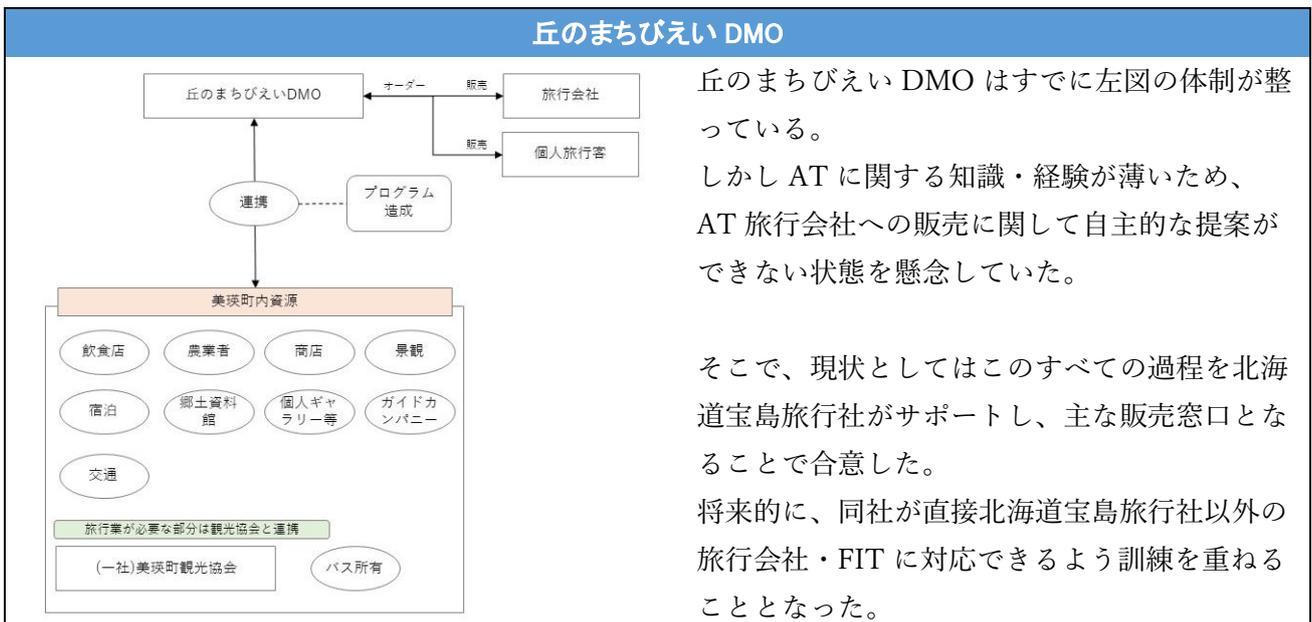
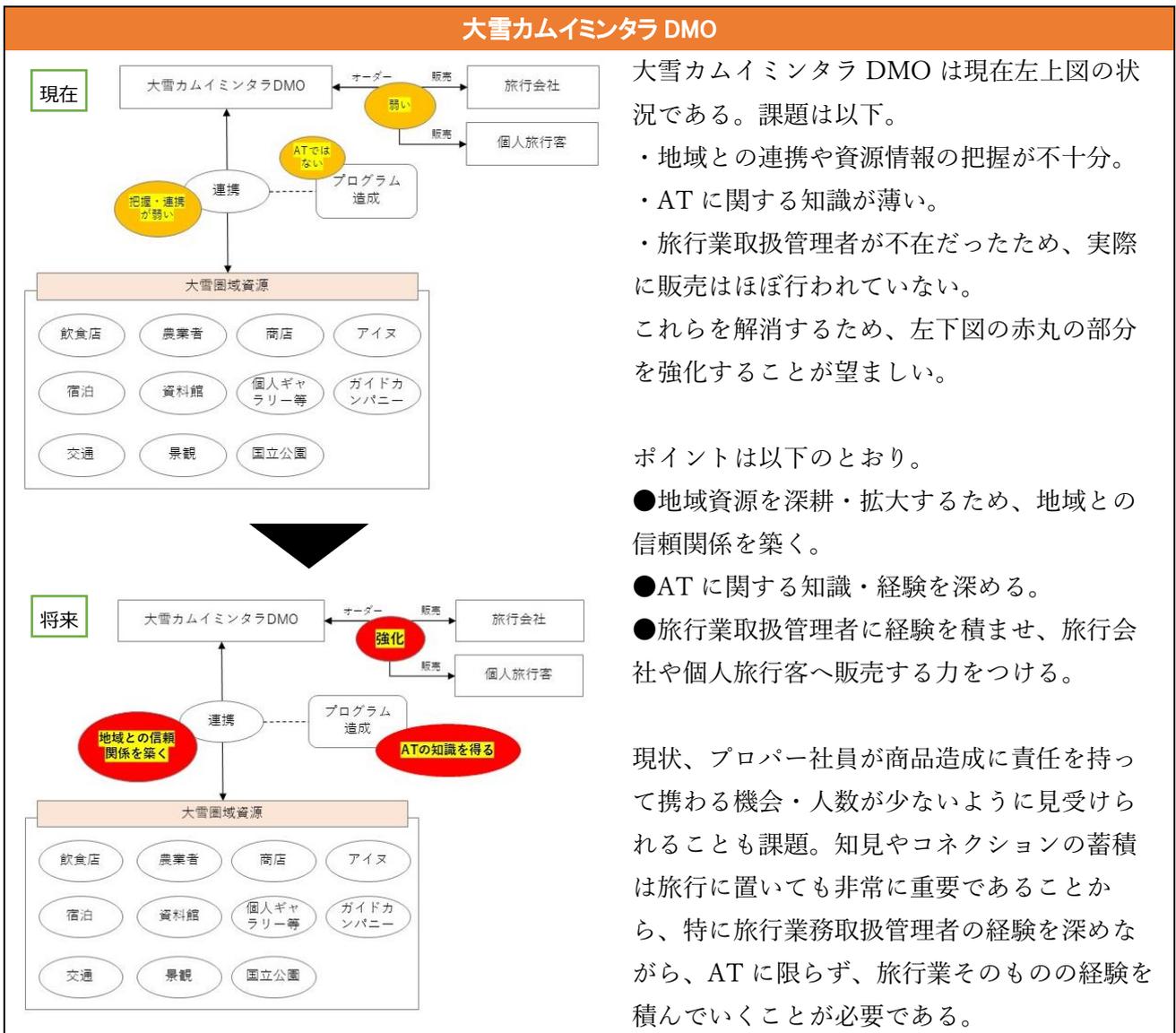
Meet your guide





KAZU RICHARD TOBAJI

[想定される販売体制のイメージ図]



【3】総括

さらなる、北海道のアドベンチャートラベルの発展にむけて

本事業の結果、2つのDMOのモデルツアーが各1本、2つの地域を繋げたツアーが1本完成した。それらの実証実験として、国内に拠点を持つATエージェントを招聘し、モニターツアーを実施した。

招聘者からのフィードバックはモニターツアーの項(P.42~60)にて記載したとおりで、冬季ツアーの販売に向けて前進したと考えている。実際に、AH社ではすでにウェブサイトでの販売に取り組んでおり、北海道宝島旅行社でも来シーズンの誘客に向けて商品一覧への追加作業に取り掛かることとなっている。

さて、本事業や『「地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャーツーリズムのモデルツアー造成等事業」冬季ATツアー造成にむけた情報整理・研修事業』等、連携する他事業の調査結果によると、世界の冬季ATツアーで人気のあるメインアクティビティは、スキー・スノーボードがスタンダードであることに加え、スノーシュー、犬ぞり、氷上での釣りといった、北海道ですでに提供しているアクティビティが好まれていることが分かった。

また、同事業での海外エージェントへのヒアリングから、次のようなキーワードが出された。

- 冬の旅行者の方がより勇敢で、冒険的である (Finisterra Travel)
- 冬の旅行者は特別な興味があるか、リピーターである (DIAMIR Erlebnisreisen GmbH)

これらの情報から、北海道には世界に通用するアクティビティが存在しており、かつそのアクティビティを好む層が存在しているものの、北海道への誘客が十分にできていないという現実を鑑みると、今後北海道の冬ATコンテンツを積極的に販売していくにあたり、新たなマーケット開拓の必要性が明確になった。同時に、既存のアクティビティの内容やガイドスキルのブラッシュアップが重要となる。

また、同事業の調査やATWSへの出展結果から、一つのエリアで2~3泊程度の長期すぎない宿泊商品をそろえることがエージェントからは求められていることも分かった。そうすると、現状の行政区分を超えてある程度広いエリアでカバーすることも必要であると考えられ、本業務の広域での連携を目指し、商品造成を行うという主旨は、マーケット深耕に対して的確であったと考えられる。

さらに、ATツアーを作るためには、ゲストの嗜好や宗教的な部分に対応するため、コンテンツだけでなくホテルや食事のコントロールができることが求められる。

とりわけ今回のモニターツアーでは、コロナ禍における臨機応変な対応が可能であること、また「臨機応変な対応が必要だと認識していること」重要なポイントであることが再確認された。

今後は、コーディネーター側の受入体制を整えていくことが第一であろう。理由は、P.61~「販売体制の構築」項目に記載の理由のとおりである。

スルーガイドの育成面でも大きな成果を得た。今回のモニターツアーはスルーガイドの育成と現地ガイドとの連携を主に重視して実施したものであり、本業務でのスルーガイド挑戦者であった石黒氏は、「自分ひとりではできなかった。周りとの連携がどれだけ重要かを実感した。他の地域のこともっと学ばなくてはならない。それが自分の住む場所（ふるさと、フィールド）にも副次的効果をもたらすことを理解した」と語っている。

アドバイザーとしてご協力いただいた Adventure Hokkaido 合同会社の方々が、ガイドの先輩として伝えたかったことを、石黒氏が身をもって理解し、それを他の参加者やゲストと共有できたことは、本業務における最大の効果であったといえる。

さて、そのような効果をもたらしたなかで、課題も明らかとなった。

- ① 北海道のアドベンチャーに対応したスルーガイドの人手・人材不足
- ② 旅行業に関する制約があることや、関係者の役割分担の認識やネットワークが不足している
- ③ 実際に販売するために必要な総合力が不足している

スルーガイド、コーディネーター、アクティビティガイド、旅行会社、添乗員と、さまざまな立場の人間が複雑に絡み合う旅行の中でも、ATには各人のより一層高い能力が求められる。その能力とは、たとえば英語力、グループ統率力、日本・北海道全体の知識、お客様のニーズを拾えるコミュニケーション能力といった個人のスキルに加え、地域との連携・信頼関係の構築が重要である。

これも、コロナ禍における臨機応変な対応の際に大きな効果を発揮することが証明された。

上記のようなスキル、関係性づくりは一朝一夕にできるものではない。また、個人の努力だけで培われるものでもない。

地域全体においてATがもたらす価値を理解することと、販売する旅行会社とも協力して関係者一丸となって受入体制を整え、実践を繰り返しながら、「わが地域ならではのAT」を形作ることを目指していく必要がある。

以上